

## 第5章 医療・保育・健康

本章では、男女別患者数や届出医師等の男女割合、児童生徒の睡眠時間の状況などについてみます。

神奈川県の大疾病別患者数は糖尿病、悪性新生物、脳血管疾患、虚血性心疾患の順で多くなっています。

2011年糖尿病患者数は21万人で2005年の2倍以上と急激に増加しています。悪性新生物患者数は10万3千人、脳血管疾患患者数7万5千人、虚血性心疾患患者数3万2千人となっています。

2011年神奈川県の自殺者は1,872人で2000年以降ほぼ横ばいの状況です。

2010年神奈川県において保健所に届け出ている女性医師数は3,943人（男性13,773人）、女性割合22.3%で2000年より1,434人増加し、女性割合は4.6ポイント高くなっています。

2011年度神奈川県の17歳男子は、朝食を「毎日食べない」生徒が9.1%、睡眠が6時間未満の生徒が31.7%います。

17歳女子は、朝食を「毎日食べない」生徒が6.4%、睡眠が6時間未満の生徒が37.0%います。

### 【疾病別患者数】

2011年神奈川県の4大疾病である糖尿病、悪性新生物、脳血管疾患、虚血性心疾患の患者数はいずれも男性が女性を上回っています。

糖尿病患者数は男性115千人、女性94千人、悪性新生物患者数男性55千人、女性48千人、脳血管疾患患者数男性44千人、女性31千人、虚血性心疾患患者数男性18千人、女性13千人です。

### 【自殺者】

神奈川県の自殺者は2011年1,872人で、2000年以降ほぼ横ばいの状況です。男性（1,277人）は女性（595人）の2.1倍です。

40歳代が最も多く、60歳代、30歳代、50歳代の順です。

全国の自殺者の動機別自殺者数は健康問題、経済・生活問題、家族問題の順で多くなっています。

### 【届出医師数、歯科医師数、薬剤師数】

2010年神奈川県において保健所に届け出ている女性医師数は3,943人（男性13,733人）、女性割合は22.3%で2000年より1,434人増加し、女性割合は4.6ポイント高くなっています。

同じく女性歯科医師数は1,720人（男性5,337人）、女性割合24.4%で2000年より510人増加し、女性割合は4.8ポイント高くなっています。

同じく女性薬剤師数は13,675人（男性5,935人）、女性割合69.7%で、2000年より3,630人増加しましたが、女性割合は1.3ポイント低くなっています。

### 【朝食の喫食、睡眠時間】

2011年度神奈川県の男子で朝食を「毎日食べない」児童生徒は6歳1.1%、10歳1.5%、14歳4.8%、17歳9.1%です。

女子で朝食を「毎日食べない」児童生徒は6歳0.7%、10歳1.3%、14歳2.7%、17歳6.4%です。

14歳と17歳男子の「毎日食べない」者が女子よりそれぞれ、2ポイント以上高くなっています。

男子で睡眠時間が「6時間未満」の児童生徒は6歳3.3%、10歳5.9%、14歳16.6%、17歳31.7%です。

女子で睡眠時間が「6時間未満」の児童生徒は6歳2.0%、10歳3.6%、14歳20.0%、17歳37.0%です。

「6時間未満」の睡眠については、6歳と10歳は男子がその割合が高く、14歳と17歳は女子が高くなっています。

### 5-1 傷病別患者数

2011年神奈川県内の傷病別患者数は、糖尿病患者が21万人、悪性新生物患者10万3千人、脳血管疾患患者7万5千人、虚血性心疾患患者3万2千人です。

2002年以降の推移は、糖尿病患者数の伸びが顕著で、2011年は2005年の10万4千人の2倍以上となっています。

他の患者数を2011年と2005年とで比較すると、悪性新生物患者数は1.2倍、脳血管疾患患者数は1.7倍、虚血性心疾患患者数は0.6倍となっており、4大疾患では虚血性心疾患は減少していますが、他の患者数は増加傾向にあります。

出典

[患者調査]

このページすべて同じ

### 5-2 糖尿病患者数

2011年神奈川県男性の糖尿病患者数は11万5千人です。2002年以降3箇年ごとの推移で最も患者数が少ない2005年の5万6千人の2.1倍となっています。

2011年女性の糖尿病患者数は9万4千人で、2005年の4万7千人の2倍です。

### 5-3 悪性新生物患者数

2011年神奈川県男性の悪性新生物患者数は5万5千人です。2002年以降3箇年ごとの推移で最も患者数が少ない2005年の4万7千人の1.2倍となっています。

2011年女性の悪性新生物患者数は4万8千人で、2005年の3万7千人の1.3倍です。

### 5-4 脳血管疾患患者数

2011年神奈川県男性の脳血管疾患の患者数は4万4千人です。2002年以降3箇年ごとの推移で最も患者数が少ない2005年の2万3千人の1.9倍となっています。

2011年女性の脳血管疾患患者数は3万1千人で、2005年の2万2千人の1.4倍です。

### 5-5 虚血性心疾患患者数

2011年神奈川県男性の虚血性心疾患患者数は1万8千人で、2005年3万2千人の0.6倍に減少しています。

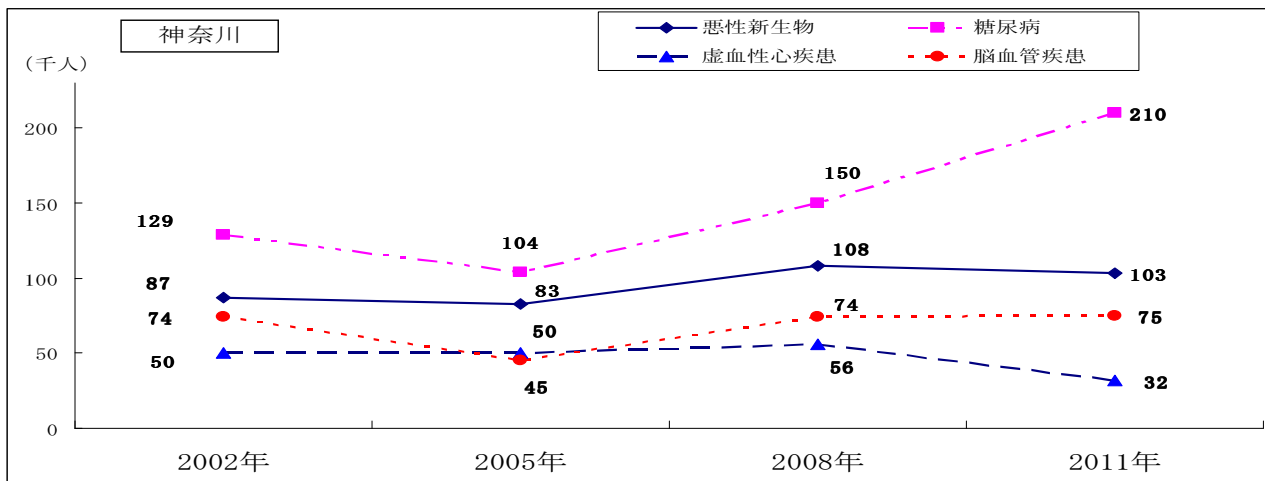
2011年女性の虚血性心疾患患者数は1万3千人で、2005年1万8千人の0.7倍です。

### 注

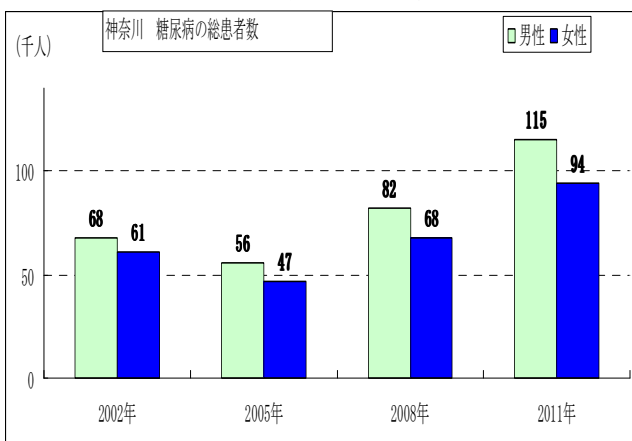
**総患者数（傷病別統計）**：調査日現在において、継続的に医療を受けている者（調査日には医療施設で受診していない者を含む）の数を次の数式により推計したものである。

総患者数＝入院患者数＋初診外来患者数＋再来外来患者数×平均診療間隔×調整係数（6／7）

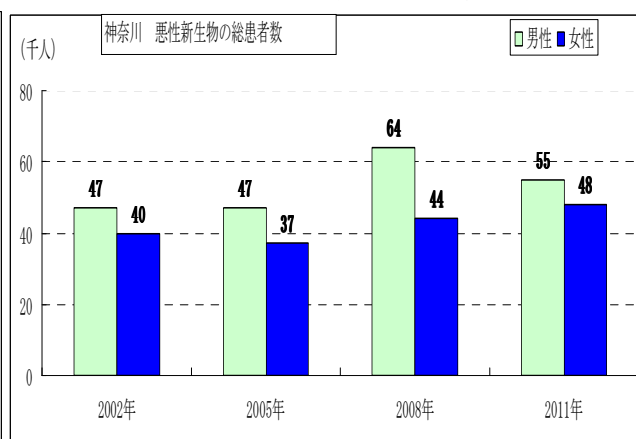
(5-1 傷病別患者数の推移 神奈川県 )



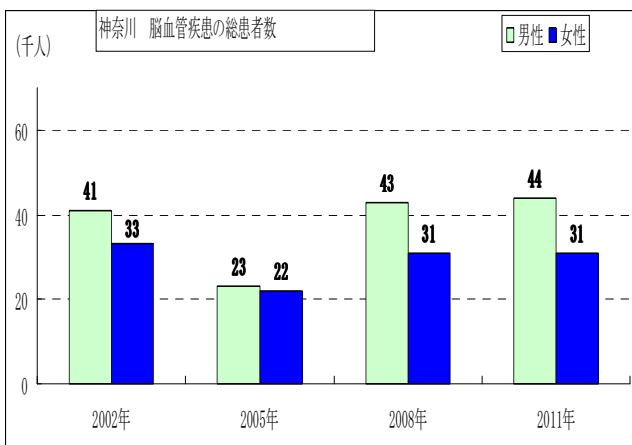
(5-2 糖尿病の男女別 総患者数の推移 神奈川県 )



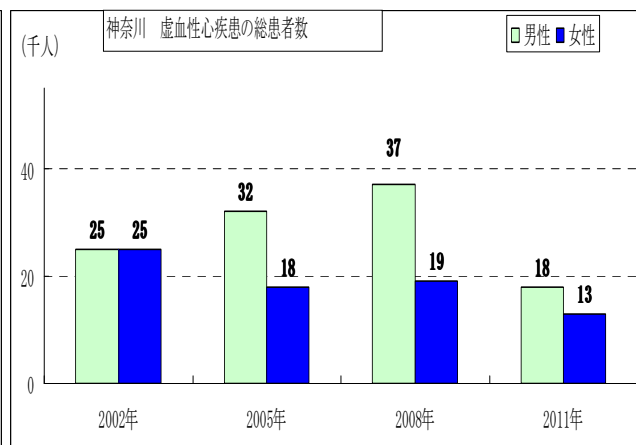
(5-3 悪性新生物の男女別 総患者数の推移 神奈川県)



(5-4 脳血管疾患の男女別 総患者数の推移 神奈川県)



(5-5 虚血性心疾患の男女別 総患者数の推移 神奈川県)



[患者調査]  
このページすべて同じ

注

5-1~5-5

- ・千人単位で表章している（「0」は該当件数500未満をあらわす）。
- ・数値は単位未満を四捨五入しているため、内数の合計が総数と合わない場合もある。

## 5-6 「精神及び行動の障害」と「神経系疾患」の傷病別患者数

2011年神奈川県における「精神及び行動の障害」と「神経系疾患」のうち、傷病別患者数で主なものは「気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）」（以下「気分障害」という）10万1千人、「神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害」（以下「神経症性障害等」という）7万8千人、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」（以下「統合失調症」という）4万5千人、「アルツハイマー病」1万7千人等です。

2002年以降の推移は、いずれも患者数が伸びています。

2011年と2002年との患者数を比較すると、「気分障害」3.1倍、「神経症性障害等」2.3倍、「統合失調症」1.3倍、「アルツハイマー病」2.8倍となっています。

出典

[患者調査]

このページすべて同じ

## 5-7 気分障害患者数

2011年神奈川県男性の気分障害患者数は4万2千人です。2002年以降3箇年ごとの推移で最も患者数の少ない2002年の1万3千人の3.2倍となっています。

2011年女性の気分障害患者数は5万8千人で、男性より1万6千人多く、2002年1万9千人の3.1倍となっています。

## 5-8 神経症性障害等患者数

2011年神奈川県男性の神経症性障害等患者数は2万7千人です。2002年以降3箇年ごとの推移で最も患者数の少ない2002年の1万3千人の2.1倍となっています。

2011年女性の神経症性障害等患者数は5万2千人で、男性より2万5千人多く、2002年2万1千人の2.5倍となっています。

## 5-9 統合失調症患者数

2011年神奈川県男性の統合失調症患者数は2万人です。2002年の1万7千人の1.2倍となっています。

2011年女性の統合失調症患者数は2万4千人で、男性より4千人多く、2002年の1万6千人の1.5倍です。

## 5-10 アルツハイマー病患者数

2011年神奈川県男性のアルツハイマー病患者数は5千人です。2002年2千人の2.5倍となっています。

2011年神奈川県女性のアルツハイマー病患者数は1万1千人で、男性より6千人多く、2002年の4千人の2.8倍です。

### ◆ 患者調査における「精神及び行動の障害」と「神経系の疾患」について（主なもの）

「精神及び行動の障害」

血管性及び詳細不明の認知症

統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害

気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）

神経性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害

「神経系の疾患」

パーキンソン病

アルツハイマー病

てんかん

片頭痛及びその他の頭痛症候群

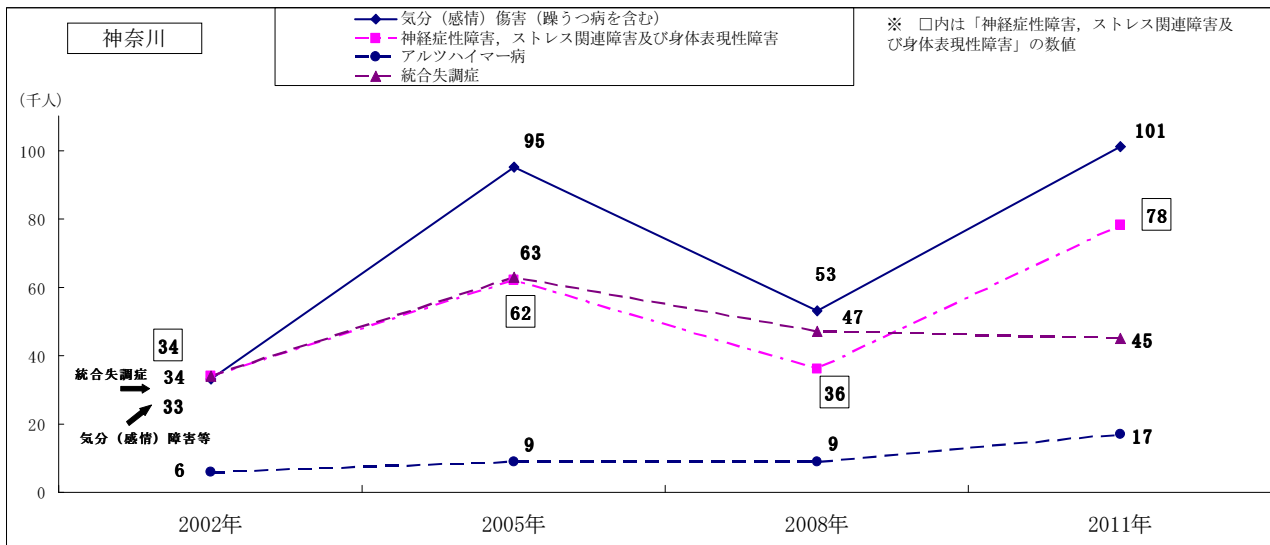
睡眠障害

## 注

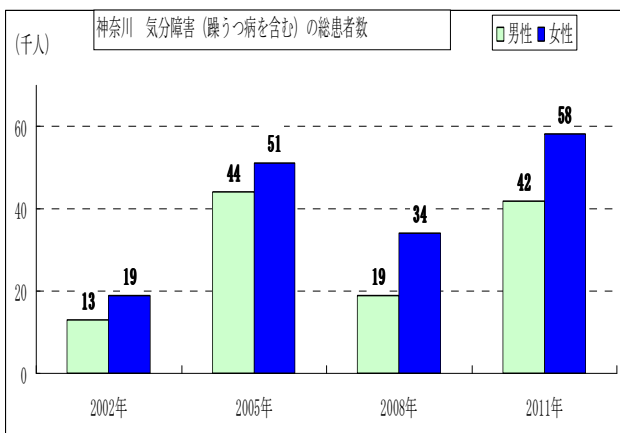
**総患者数（傷病別統計）**：調査日現在において、継続的に医療を受けている者（調査日には医療施設で受診していない者を含む）の数を次の数式により推計したものである。

総患者数＝入院患者数＋初診外来患者数＋再来外来患者数×平均診療間隔×調整係数（6／7）

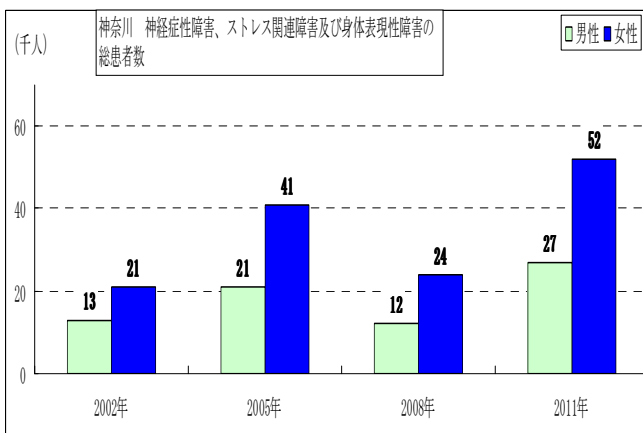
(5-6 「精神及び行動の障害」と「神経系の疾患」 傷病別患者数の推移 神奈川県)



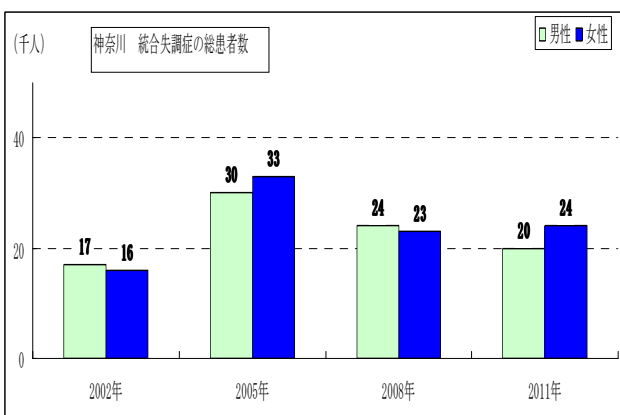
(5-7 気分(感情)障害(躁うつ病含む)の男女別総患者数の推移 神奈川県)



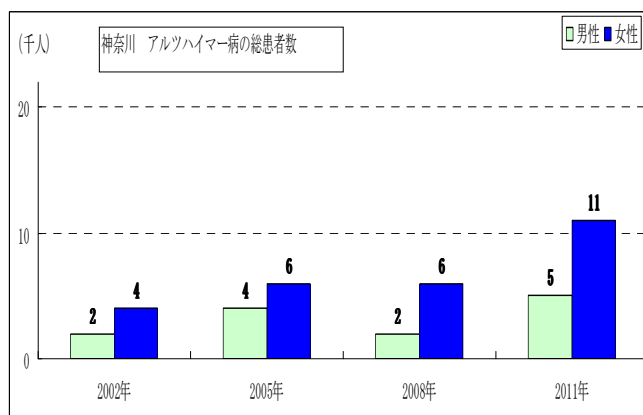
(5-8 神経症性障害(ストレス関連障害及び身体表現性障害)の男女別総患者数の推移 神奈川県)



(5-9 統合失調症の男女別総患者数の推移 神奈川県)



(5-10 アルツハイマー病の男女別総患者数の推移 神奈川県)



[患者調査]

このページすべて同じ

注

5-6~5-10

- ・千人単位で表章している(「0」は該当件数500未満をあらわす)。
- ・数値は単位未満を四捨五入しているため、内数の合計が総数と合わない場合もある。

### 5-11 悪性新生物死亡者数

#### 人口10万人当たり悪性新生物死亡者数

神奈川県での死因別の第1位は「悪性新生物」、第2位が「心疾患」、第3位が「脳血管疾患」です。「悪性新生物」は、1978年に「脳血管疾患」を抜き第1位となりその後も増加傾向にあります。

2010年1年間の神奈川県の悪性新生物による死亡者は、21,246人で、2000年より4,738人多くなっています。男性12,946人、女性8,300人で男性は女性の1.6倍です。

器官別の死亡者割合は、男女共に「気管・気管支・肺」、「胃」が高くなっています。

また、人口10万人当たりの死亡者は234.8人です。

**出典** [衛生統計年報]  
[人口動態統計] ☆

#### ◆ 2010年県内悪性新生物死亡者割合 男女別上位5

男性		女性	
気管、気管支及び肺の悪性新生物	22.7%	気管、気管支及び肺の悪性新生物	14.1%
胃の悪性新生物	15.5%	胃の悪性新生物	11.2%
肝及び肝内胆管の悪性新生物	9.2%	結腸の悪性新生物	10.8%
結腸の悪性新生物	7.9%	乳房の悪性新生物	10.3%
膵の悪性新生物	7.0%	膵の悪性新生物	9.5%

[衛生統計年報]  
☆

#### ◆ 2010年県内死因割合 男女別上位7

	総数	男性	女性
第1位	悪性新生物 31.4%	悪性新生物 34.5%	悪性新生物 27.4%
第2位	心疾患 14.7%	心疾患 13.6%	心疾患 16.1%
第3位	脳血管疾患 10.0%	肺炎 9.3%	脳血管疾患 11.1%
第4位	肺炎 9.2%	脳血管疾患 9.1%	肺炎 9.1%
第5位	老衰 3.9%	不慮の事故 3.8%	老衰 6.5%
第6位	不慮の事故 3.5%	自殺 3.6%	不慮の事故 3.2%
第7位	自殺 2.8%	肝疾患 2.3%	自殺 1.8%

※心疾患は高血圧性を除く。

[衛生統計年報]

### 5-12 心疾患死亡者数

#### 人口10万人当たり心疾患死亡者数

神奈川県で「心疾患」は、1995年から1999年まで「脳血管疾患」に次いで第3位でしたが、2000年から再び第2位となりその後も増加傾向にあります。

2010年1年間の神奈川県の心疾患による死亡者は、9,976人です。

また、人口10万人当たりの死亡者は110.3人で、2000年の83.8人より26.5人(31.6%)多く、1970年の57.7人より52.6人(91.2%)多くなっています。

**出典** [衛生統計年報]  
[人口動態統計] ☆

### 5-13 脳血管疾患死亡者数

#### 人口10万人当たり脳血管疾患死亡者数

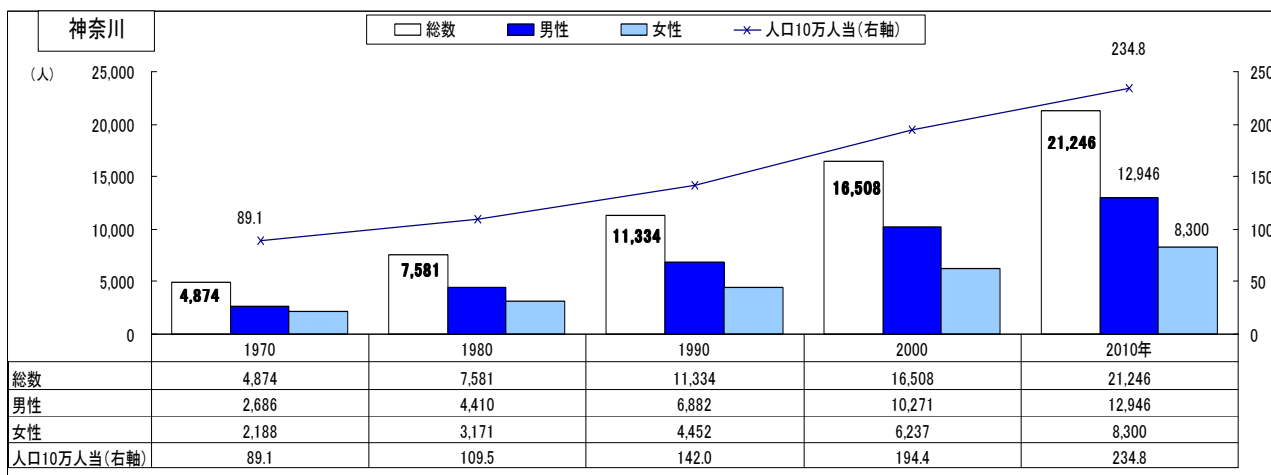
神奈川県では、「脳血管疾患」は1977年までは死因別の第1位でしたが、78年には「悪性新生物」に抜かれ第2位となり、2000年以降は「心疾患」にも再度抜かれ第3位となっています。

2010年1年間の神奈川県の脳血管疾患による死亡者は、6,758人です。

また、人口10万人当たりの死亡者は74.7人で、2000年の81.8人より7.1人(△8.7%)少なく、1970年の110.7人より36人(△32.5%)少なくなっています。

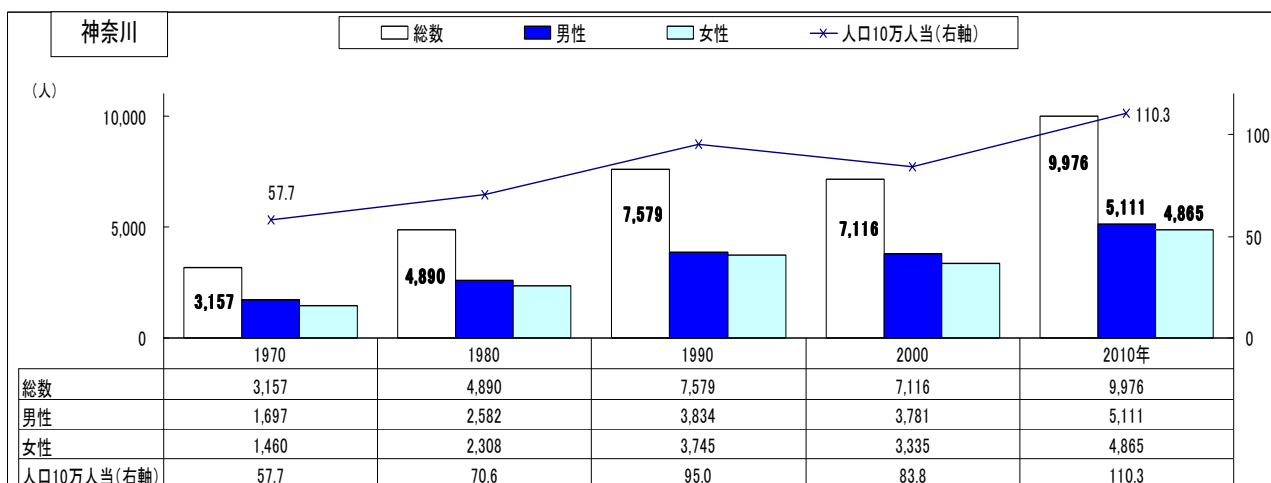
**出典** [衛生統計年報]  
[人口動態統計] ☆

(5-11) 悪性新生物死亡者数 人口10万人当たり悪性新生物死亡者数



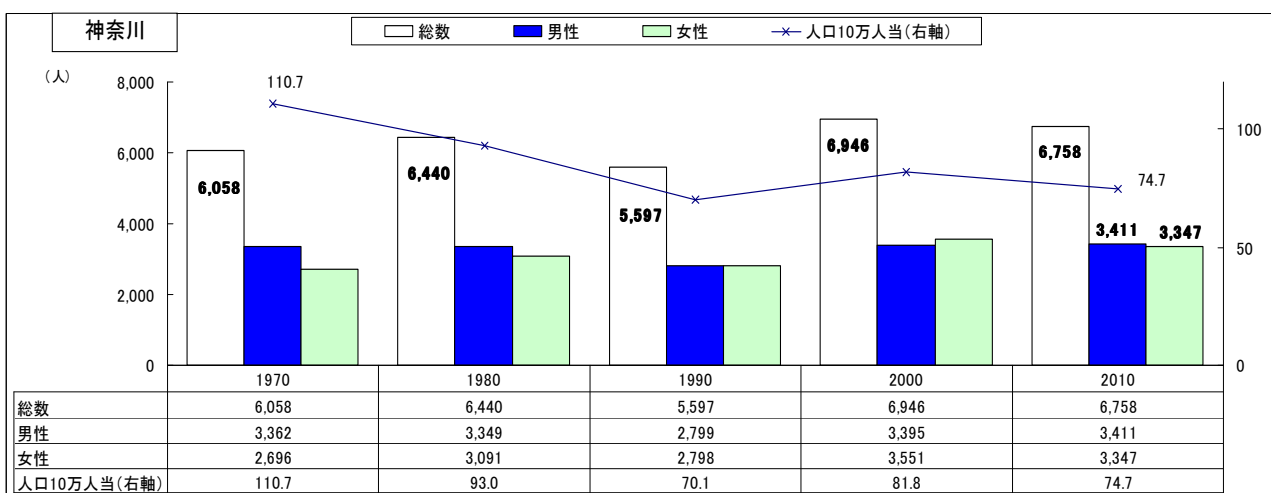
(5-12) 心疾患死亡者数 人口10万人当たり心疾患死亡者数

☆



(5-13) 脳血管疾患死亡者数 人口10万人当たり脳血管疾患死亡者数

☆



注

5-11~5-13

各年暦年の集計。

人口10万人当たり死亡者： 人口10万人当たりの死亡者数は、各死因別死亡者数を総人口で除したもの。

総人口は各年10月1日現在。

[衛生統計年報]  
[人口動態調査]  
このページすべて同じ

☆

### 5-14 自殺者数の推移

神奈川県は2011年1,872人です。2000年以降は1,600人台から1,900人台で推移しています。

2011年の男女別自殺者は、男性1,277人、女性595人で、男性が女性の2.1倍となっています。

**出典** [衛生統計年報]  
[人口動態調査]

### 5-15 年齢階層別自殺者数の推移 (神奈川県、全国)

神奈川県の2011年の年齢階層別自殺者の状況は、40歳代が366人で最も多く、60歳代335人、30歳代304人、50歳代297人の順です。30歳代から50歳代のいわゆる働き盛りの年代の自殺者が多くなっています。

男女別では、男性は40歳代が267人で最も多く、以下50歳代223人、60歳代219人、30歳代205人の順です。

女性は60歳代が116人で最も多く、以下30歳代と40歳代99人、70歳代80人の順です。

全国の2011年の年齢階層別自殺者の状況は、60歳代が

5,547人で最も多く、50歳代5,375人、40歳代5,053人、30歳代4,455人の順です。

男女別では、男性は50歳代が3,985人で最も多く、以下60歳代3,853人、40歳代3,675人、30歳代3,123人の順です。

女性は60歳代が1,694人で最も多く、次いで70歳代1,412人の順です。また、80歳代も1,177人おり、高齢者の自殺が多くなっています。

**出典** [人口動態調査]

[平成23年中における自殺の状況 警察庁]

### 5-16 月別自殺者数 (神奈川県、全国)

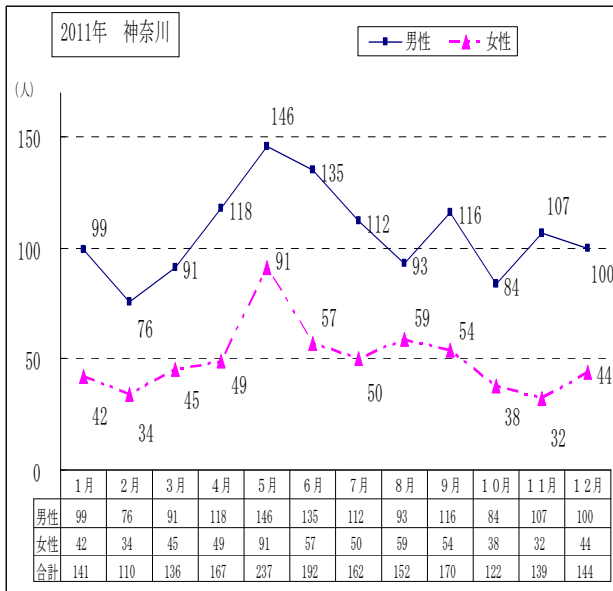
神奈川県の2011年の月別自殺者数は5月が237人で最も多く、以下6月、9月、4月の順で多くなっています。なお、自殺者数が少ない月は2月で110人です。

また全国2011年の月別自殺者数は5月が3,375人で最も多く、以下6月、7月、4月の順で多くなっています。最も自殺者数が少ない月は12月2,097人です。

**出典** [人口動態調査]

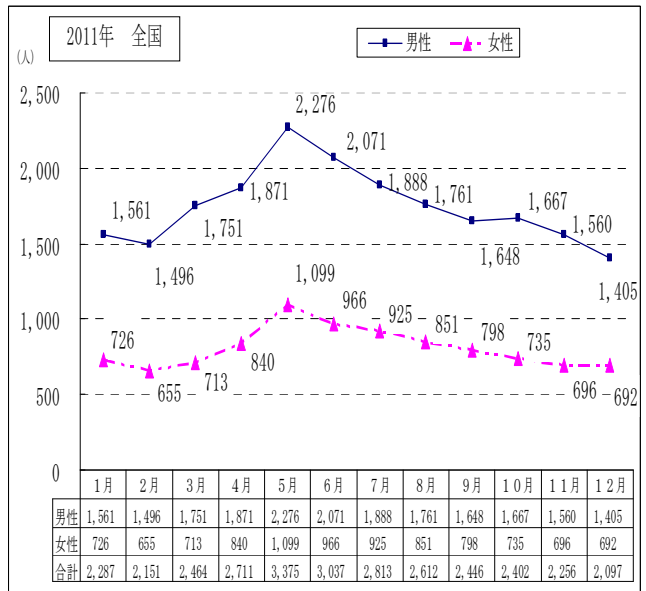
[平成23年中における自殺の状況 警察庁]

(5-16 2011年 月別自殺者 神奈川県)



[人口動態調査]

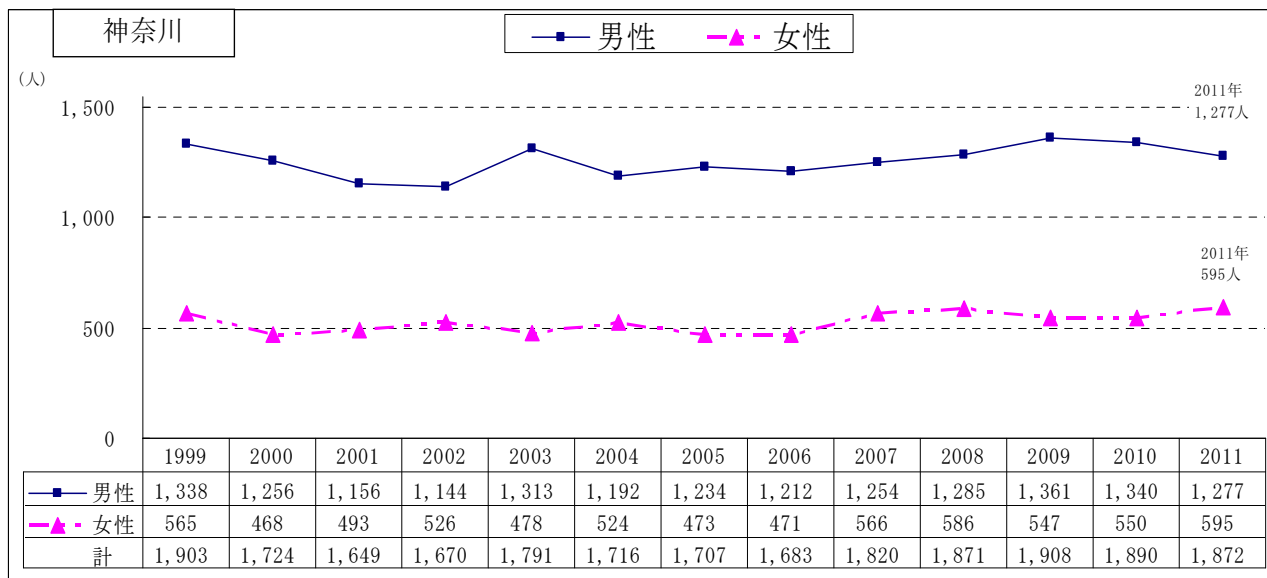
(5-16 2011年 月別自殺者数 全国)



[平成23年中における自殺の状況 警察庁]

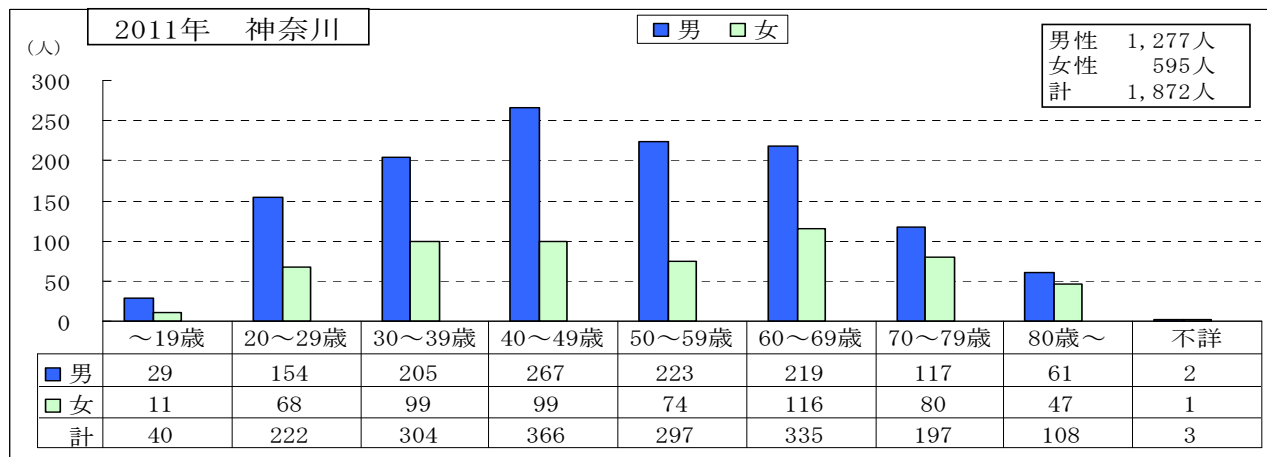


(5-14 自殺者数の推移 神奈川県)



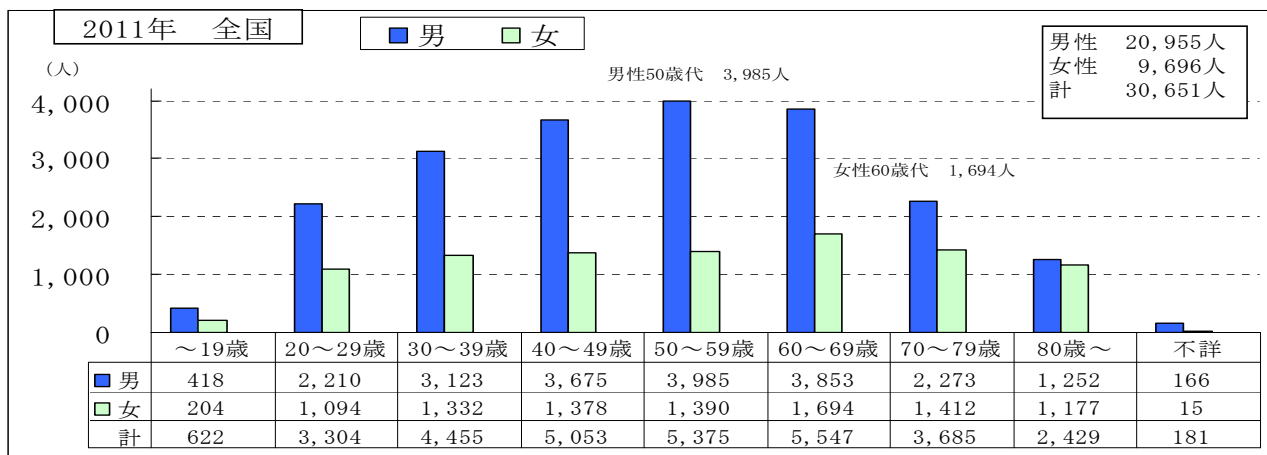
(5-15 2011年 年齢階層別自殺者数 神奈川県)

[衛生統計年報] [人口動態調査]



(5-15 2011年 年齢階層別自殺者数 全国)

[人口動態調査]



[平成23年中における自殺の状況 警察庁]

注

5-14~5-16  
各年暦年の集計。

### 5-17 自殺の原因・動機別自殺者数（全国）

全国2011年の自殺の原因・動機別自殺者数では「健康問題」が14,621人で最も多く、次いで「経済・生活問題」6,406人、「家庭問題」4,547人の順です。

男女別においても「健康問題」が男女ともに多いが、他の項目で相違がみられます。

「経済・生活問題」「勤務問題」について男性は多く、「家庭問題」は女性が多くなっています。

より詳細な区分では、「家庭問題」は「夫婦関係の不和」が最も多く、「家族の将来悲観」「家族の死亡」の順です。

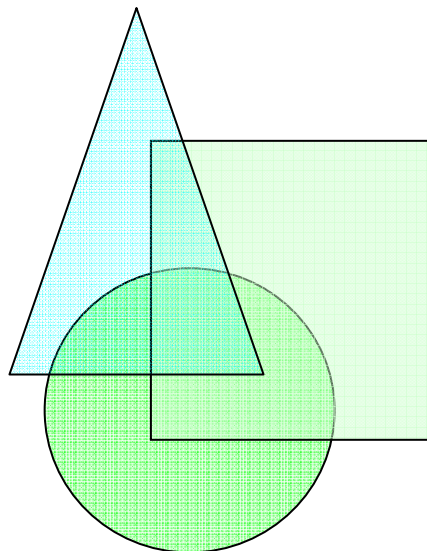
「健康問題」は「病気の悩み・影響（うつ病）」が最も多く、「病気の悩み（身体の病気）」「病気の悩み（統合失調症）」の順です。

「経済・生活問題」は、「生活苦」が最も多く、「負債（その他）」「負債（多重債務）」の順です。

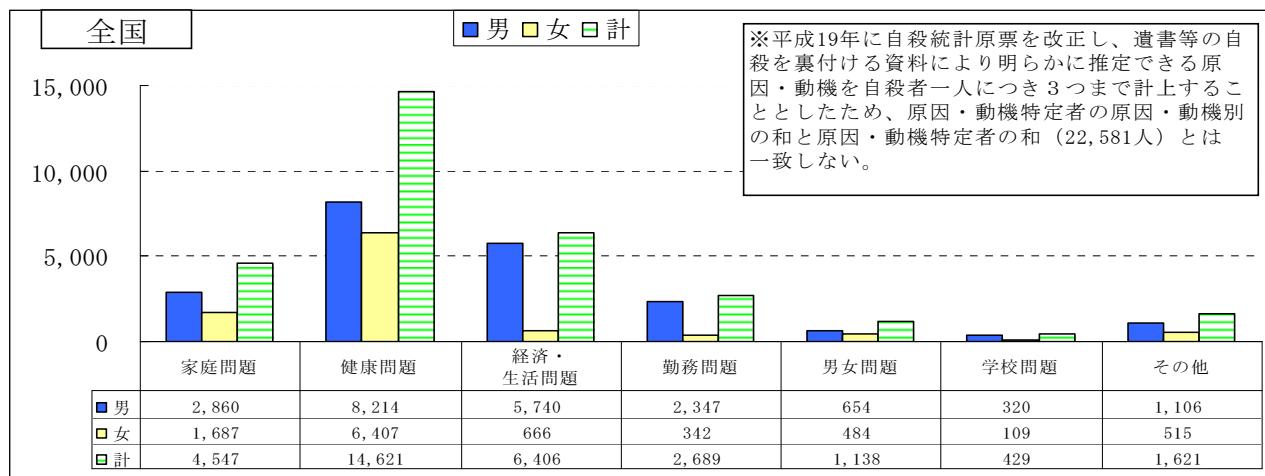
「勤務問題」は、「仕事疲れ」「職場の人間関係」の順です。

出典

[平成23年中における自殺の状況  
警察庁]



(5-17 2011年 自殺の原因・動機別自殺者数 全国)



※平成19年に自殺統計原票を改正し、遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上することとしたため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者の和(22,581人)とは一致しない。

	男	女	計		男	女	計			
家庭問題	親子関係の不和	284	254	538	勤務問題	仕事の失敗	429	42	471	
	夫婦関係の不和	930	265	1,195		職場の人間関係	531	126	657	
	その他家族関係の不和	321	205	526		職場環境の変化	323	36	359	
	家族の死亡	324	249	573		仕事疲れ	647	76	723	
	家族の将来悲観	405	253	658		その他	417	62	479	
	家族からのしつけ・叱責	114	52	166		<b>勤務問題 計</b>	<b>2,347</b>	<b>342</b>	<b>2,689</b>	
	子育ての悩み	28	131	159		男女問題	結婚をめぐる悩み	66	50	116
	被虐待	1	4	5			失恋	207	158	365
	介護・看病疲れ	207	119	326			不倫の悩み	116	85	201
	その他	246	155	401			その他交際をめぐる悩み	215	155	370
<b>家庭問題 計</b>	<b>2,860</b>	<b>1,687</b>	<b>4,547</b>	その他	50		36	86		
健康問題	病気の悩み(身体の病気)	3,037	1,622	4,659	<b>男女問題 計</b>	<b>654</b>	<b>484</b>	<b>1,138</b>		
	病気の悩み・影響(うつ病)	3,255	3,258	6,513	学校問題	入試に関する悩み	27	9	36	
	病気の悩み・影響(統合失調症)	659	654	1,313		その他進路に関する悩み	123	29	152	
	病気の悩み・影響(アルコール依存症)	228	67	295		学業不振	107	34	141	
	病気の悩み・影響(薬物乱用)	29	22	51		教師との人間関係	5	6	11	
	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	641	566	1,207		いじめ	5	4	9	
	身体障害の悩み	192	101	293		その他学友との不和	24	15	39	
	その他	173	117	290		その他	29	12	41	
<b>健康問題 計</b>	<b>8,214</b>	<b>6,407</b>	<b>14,621</b>	<b>学校問題 計</b>	<b>320</b>	<b>109</b>	<b>429</b>			
経済・生活問題	倒産	77	5	82	その他	犯罪発覚等	174	29	203	
	事業不振	902	49	951		犯罪被害	3	6	9	
	失業	725	51	776		後追い	66	52	118	
	就職失敗	314	49	363		孤独感	373	216	589	
	生活苦	1,290	235	1,525		近隣関係	53	27	80	
	負債(多重債務)	930	68	998		その他	437	185	622	
	負債(連帯保証債務)	35	8	43		<b>その他 計</b>	<b>1,106</b>	<b>515</b>	<b>1,621</b>	
	負債(その他)	976	96	1,072						
	借金の取り立て苦	68	9	77						
	自殺による保険金支給	86	9	95						
	その他	337	87	424						
<b>経済・生活問題 計</b>	<b>5,740</b>	<b>666</b>	<b>6,406</b>							

注)平成19年に自殺統計原票を改正し、遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上することとしたため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者の和(22,581人)とは一致しない。

5 医療・保育・健康

[平成23年中における自殺の状況 警察庁]

注

暦年の集計。

### 5-18 病院数

#### 人口10万人当たり病院（神奈川県、全国）

2010年神奈川県の病院数は343で、10年前の2000年362より19、20年前の1990年382より39減少しています。

2010年神奈川県の人口10万人当たりの病院数は3.8です。なお、全国の人口10万人当たりの病院数は6.8です。

出典

〔衛生統計年報〕

このページすべて同じ

☆

### 5-19 病院病床数

#### 人口10万人当たり病院病床数 （神奈川県、全国）

2010年神奈川県の病院病床数は73,574で、10年前の2000年74,807より1,233減少し、20年前の1990年73,381より193増加しています。

2010年神奈川県の人口10万人当たりの病院病床数は813.1です。なお、全国の人口10万人当たりの病院病床数は1,244.3です。

☆

### 5-20 一般診療所数

#### 人口10万人当たり一般診療所数 （神奈川県、全国）

2010年神奈川県の一般診療所数は6,407で、10年前の2000年5,522より885、20年前の1990年4,564より1,843増加しています。

2010年神奈川県の人口10万人当たりの病院数は70.8です。なお、全国の人口10万人当たりの一般診療所数は78.0です。

☆

### 5-21 一般診療所病床数

#### 人口10万人当たり一般病床数 （神奈川県、全国）

2010年神奈川県の一般診療所病床数は3,226で、10年前の2000年5,368より2,142、20年前の1990年7,251より4,025減少しています。

2010年神奈川県の人口10万人当たりの一般診療所病床数は35.7です。なお、全国の人口10万人当たりの一般診療所数は106.9です。

☆

### 5-22 歯科診療所数

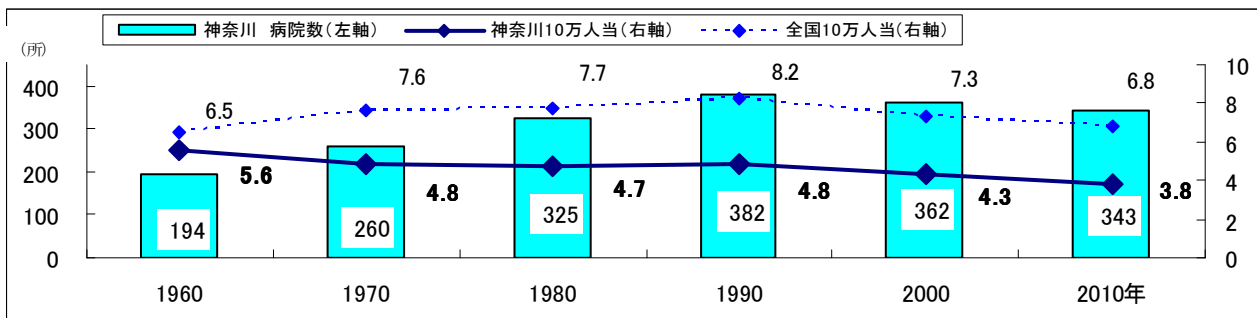
#### 人口10万人当たり歯科診療所数 （神奈川県、全国）

2010年神奈川県の歯科診療所数は4,868で、10年前の2000年4,290より578、20年前の1990年3,385より1,483増加しています。

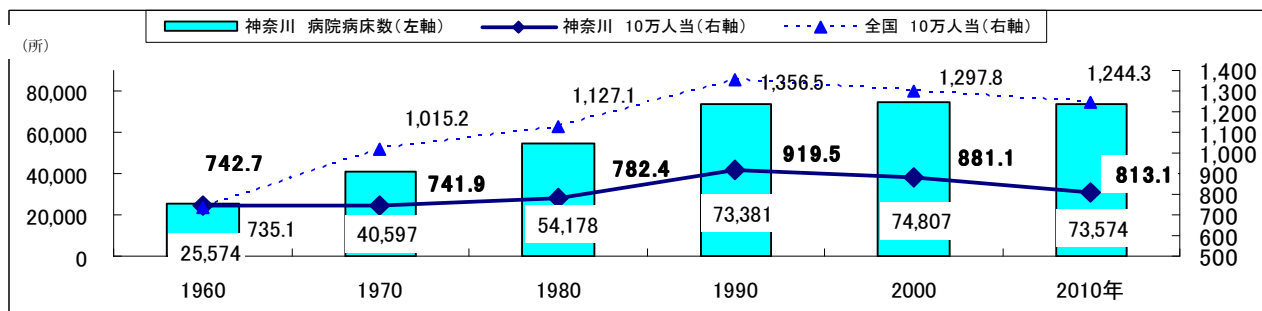
2010年神奈川県の人口10万人当たりの歯科診療所数は53.8です。なお、全国の人口10万人当たりの歯科診療所数は53.4です。

☆

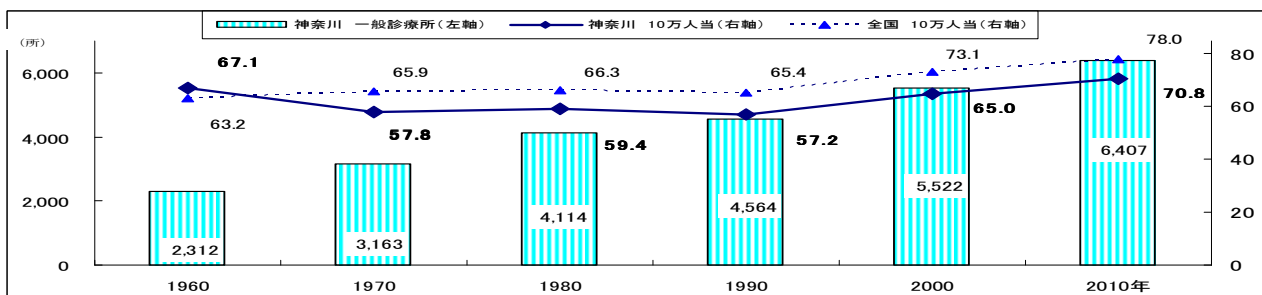
(5-18) 病院数、人口10万人当たり病院数



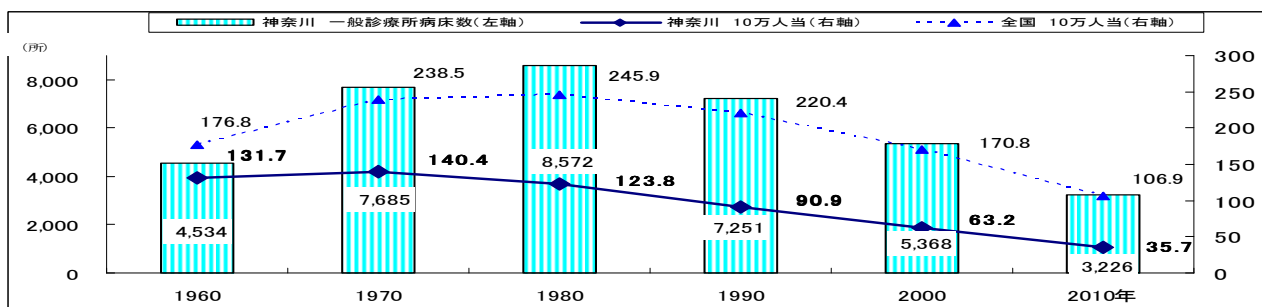
(5-19) 病院病床数、人口10万人当たり病院病床数



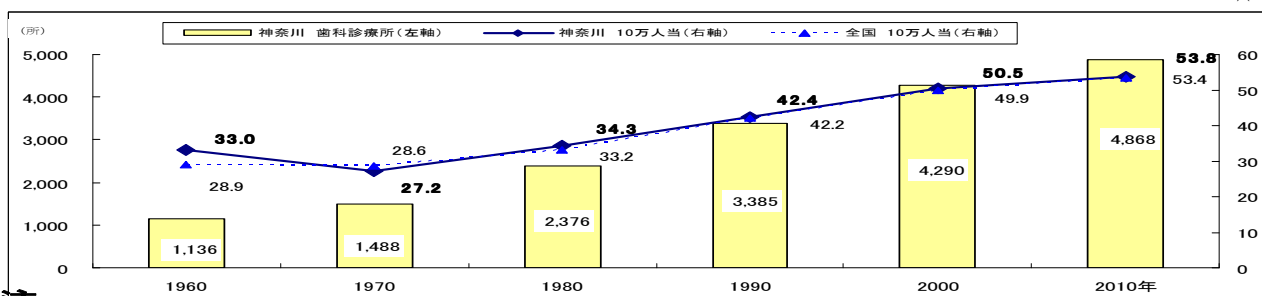
(5-20) 一般診療所数、人口10万人当たり一般診療所数



(5-21) 一般診療所病床数、人口10万人当たり一般診療所病床数



(5-22) 歯科診療所数、人口10万人当たり歯科診療所数



注

5-18~5-22

各年10月1日現在の数値。なお、1983年以前は12月1日現在の数値。  
人口10万人当たりの病院数等は、総人口で除したもの。  
総人口は各年10月1日現在。

[衛生統計年報]  
このページすべて同じ



### 5-23 医療施設従業医師数 診療科目別医師割合

2010年神奈川県において医療施設に従事している医師数は16,997人で、2年前の2008年16,168人より829人、10年前の2000年13,675人より3,322人増加しています。

小児科等診療科目別の医師数は、小児科医は2010年1,727人です。2008年1,675人より52人増加しているものの、2000年1,809人より82人減少しています。

産婦人科医は2010年669人です。2008年654人より15人増加しているものの、2000年686人より17人減少しています。

また、2010年医師総数に占める小児科医の割合は10.2%です。2年前の2008年10.4%より0.2ポイント、10年前の2000年13.2%より3ポイント低くなっています。

2010年の産婦人科医の割合は3.9%です。2年前の2008年4.0%より0.1ポイント、10年前の2000年5.0%より1.1ポイント低くなっています。

出典

〔医師・歯科医師・薬剤師調査〕より作成

### 5-24 医療施設従業医師数（全国） 診療科目別医師割合（全国）

2010年全国において医療施設に従事している医師数は280,431人で、10年前の243,201人より37,230人増加しています。

小児科等診療科目別の医師数は、小児科医は2010年30,344人です。1960年からの10年毎の推移をみると、20年前の1990年をピークにその後減少傾向にあります。

また、2010年医師総数に占める小児科医の割合は10.8%です。10年前の2000年13.8%より3ポイント低くなっています。

産婦人科医は2010年10,462人です。1960年からの10年毎の推移をみると減少傾向にあります。

また、2010年の産婦人科医の割合は3.7%で、10年前の2000年4.6%より0.9ポイント低くなっています。

出典

〔医師・歯科医師・薬剤師調査〕より作成

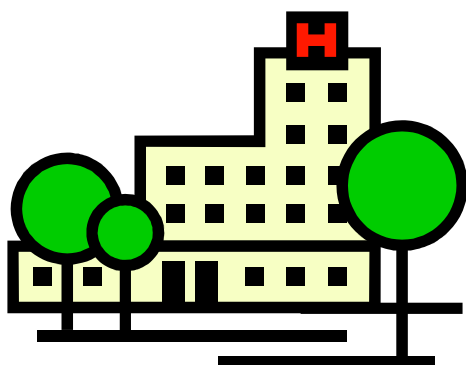
### 5-25 病院における診療科目別施設数

2010年神奈川県における診療科目別施設数は、小児科が113施設で、2000年148施設より35件減少しています。

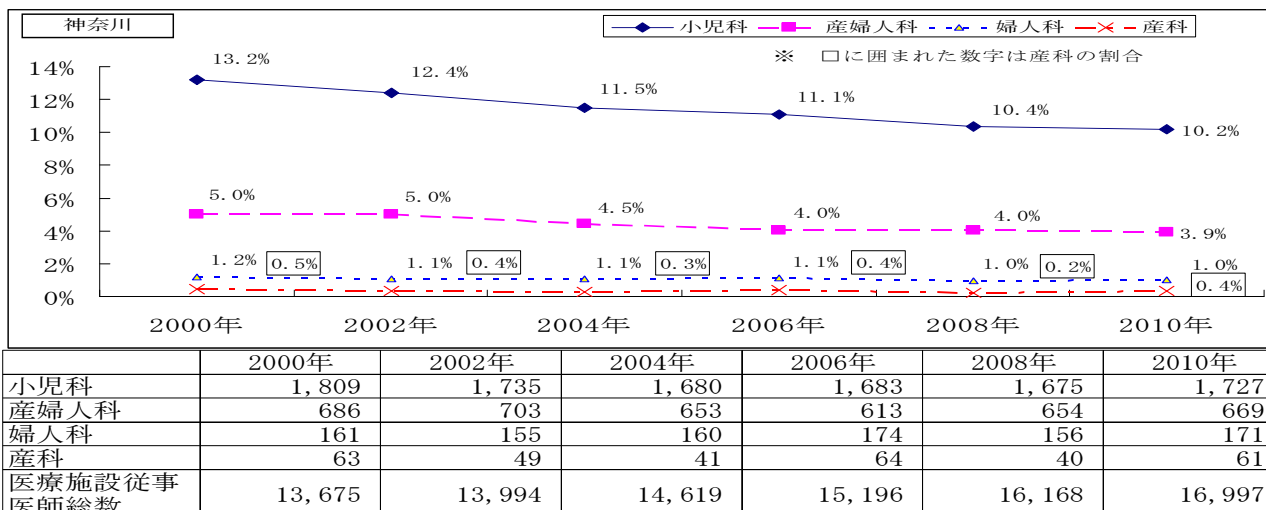
2010年の産婦人科は62施設で2000年より16件減少、婦人科は51施設で2000年より7件増加、産科は14施設で2000年と同数です。

出典

〔衛生統計年報〕

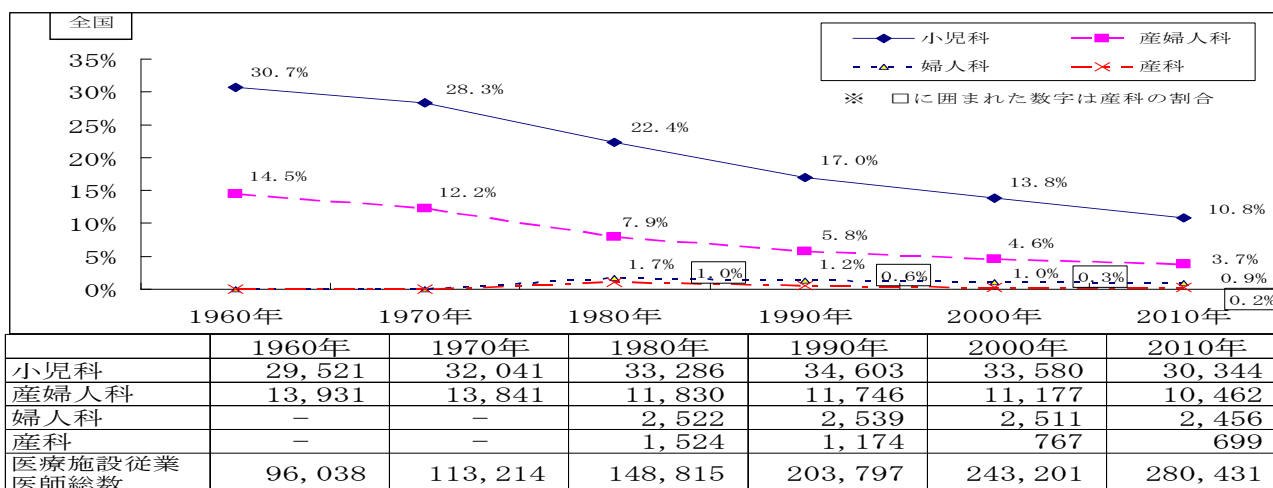


(5-23 医療施設従業医師 診療科目別(複数回答)人数と全体に占める割合の推移 神奈川県 小児科・産婦人科・婦人科・産科)



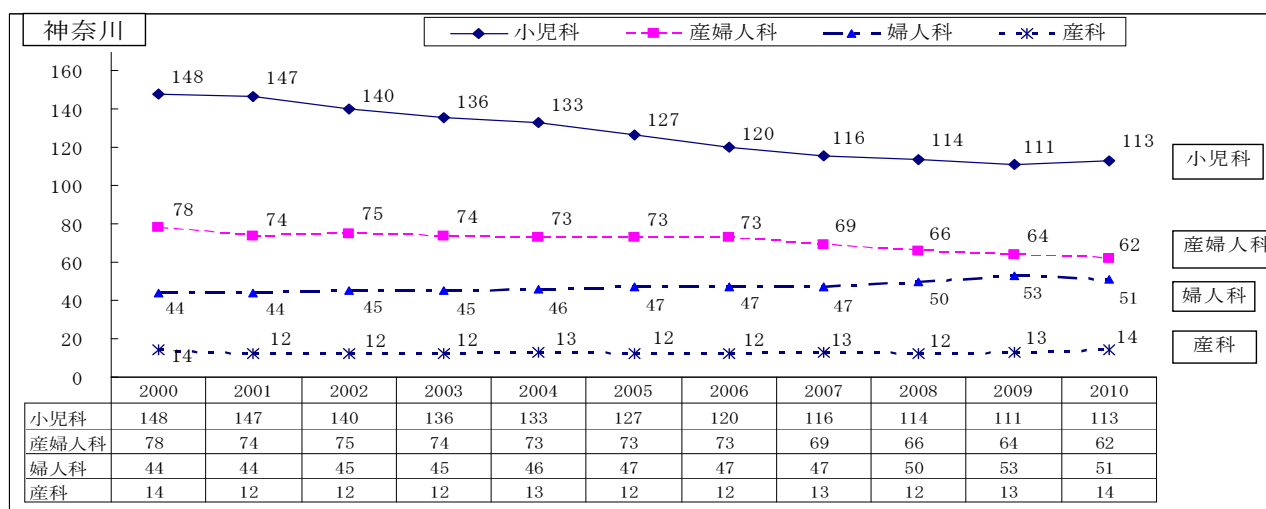
[医師・歯科医師・薬剤師調査]より作成

(5-24 医療施設従業医師 診療科目別(複数回答)人数と全体に占める割合の推移 全国)



[医師・歯科医師・薬剤師調査]より作成

(5-25 病院における診療科目別施設数の推移 神奈川県 小児科・産婦人科・婦人科・産科)



注

[衛生統計年報]

5-23~5-25

医師については各年12月31日現在の数値。

病院数及び診療科目は各年10月1日現在。

### 5-26 届出医師数 女性医師割合（神奈川県、全国）

2010年神奈川県において保健所に届け出ている男性医師数は13,733人で、2年前の2008年13,256人より477人、10年前の2000年11,686人より2,047人増加しています。

2010年の女性医師数は3,943人で、2年前の2008年3,536人より407人、10年前の2000年2,509人より1,434人増加しています。

2010年女性医師割合は22.3%で、10年前の2000年17.7%より4.6ポイント高くなっています。

なお、全国の2010年女性医師割合は18.9%で、神奈川県の女性医師割合は全国より3.4ポイント高くなっています。

**出典** [医師・歯科医師・薬剤師調査]より作成  
このページすべて同じ

### 5-27 届出歯科医師数 女性歯科医師割合（神奈川県、全国）

2010年神奈川県において保健所に届け出ている男性歯科医師数は5,337人で、2年前の2008年5,260人より77人、10年前の2000年4,949人より388人増加しています。

2010年女性歯科医師数は1,720人で、2年前の2008年1,609人より111人、10年前の2000年1,210人より510人増加しています。

2010年女性歯科医師割合は24.4%で、10年前の2000年19.6%より4.8ポイント高くなっています。

なお、全国の2010年女性歯科医師割合は21.1%で、神奈川県の女性医師割合は全国より3.3ポイント高くなっています。

### 5-28 届出薬剤師数 女性薬剤師割合（神奈川県、全国）

2010年神奈川県において保健所に届け出ている男性薬剤師数は5,935人で、2年前の2008年5,316人より619人、10年前の2000年4,102人より1,833人増加しています。

2010年の女性薬剤師数は13,675人で、2年前の2008年12,334人より1,341人、10年前の2000年10,045人より3,630人増加しています。

2010年女性薬剤師割合は69.7%で、1988年以降70%前後で推移しています。

なお、全国の2010年女性薬剤師割合は60.9%で、神奈川県の女性薬剤師割合は全国より8.8ポイント高くなっています。

#### ◆ 各届出の無職者の割合（神奈川県、全国）

##### 医師：無職の者

	男性	神奈川県	女性	神奈川県	男性	全国	女性	全国
1998年		0.5%		1.3%		0.6%		1.4%
2010年		0.4%		0.7%		0.6%		1.0%

##### 歯科医師：無職の者

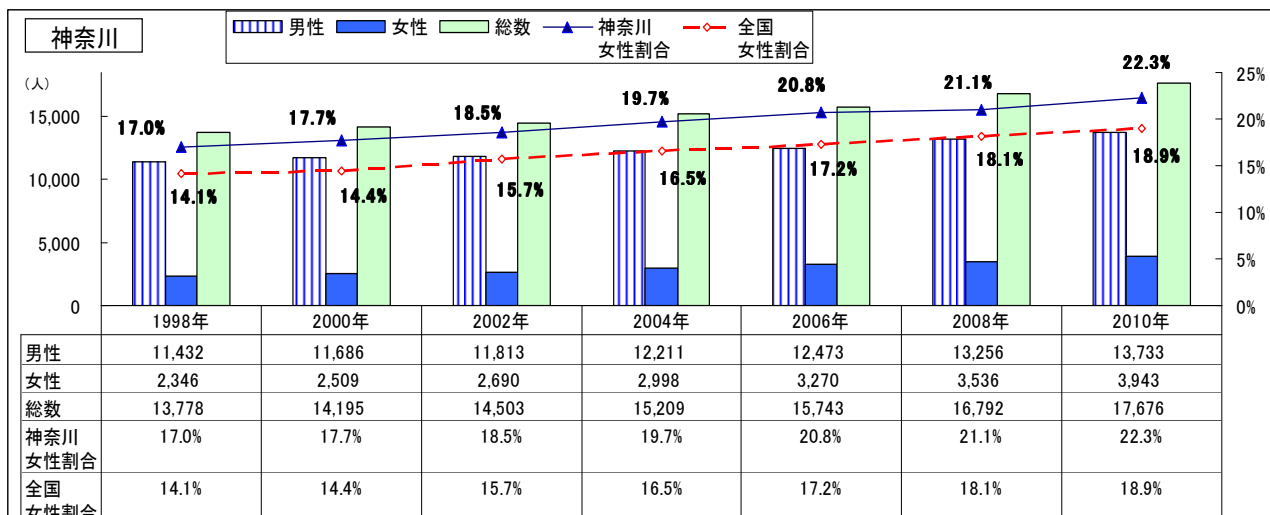
	男性	神奈川県	女性	神奈川県	男性	全国	女性	全国
1998年		0.5%		3.0%		0.9%		2.7%
2010年		0.5%		1.8%		0.9%		1.9%

##### 薬剤師：無職の者

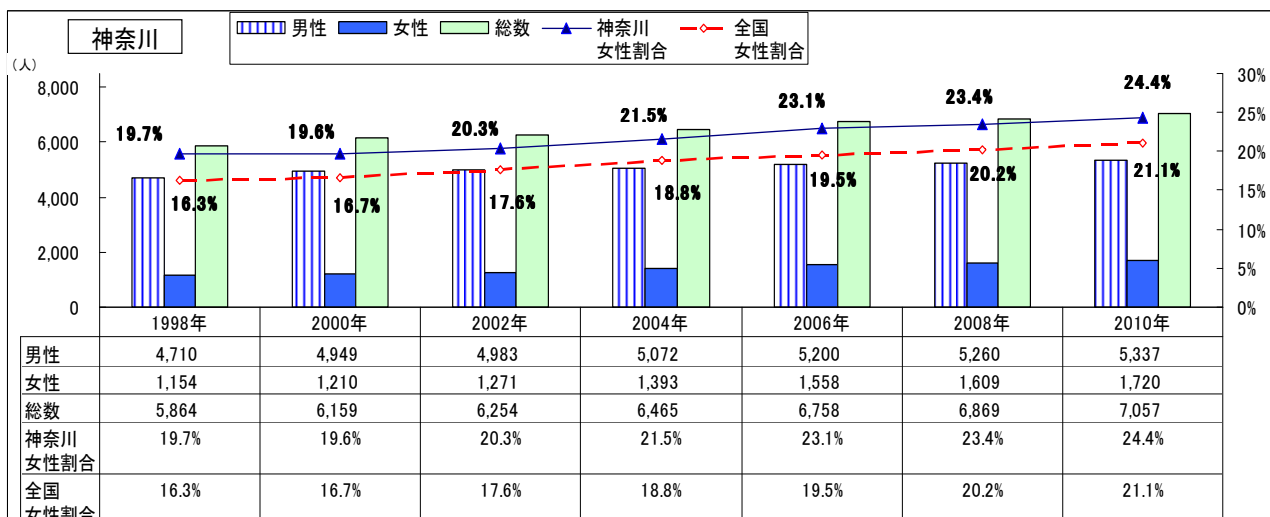
	男性	神奈川県	女性	神奈川県	男性	全国	女性	全国
1998年		3.4%		11.2%		2.7%		9.5%
2010年		1.7%		5.8%		1.9%		5.8%



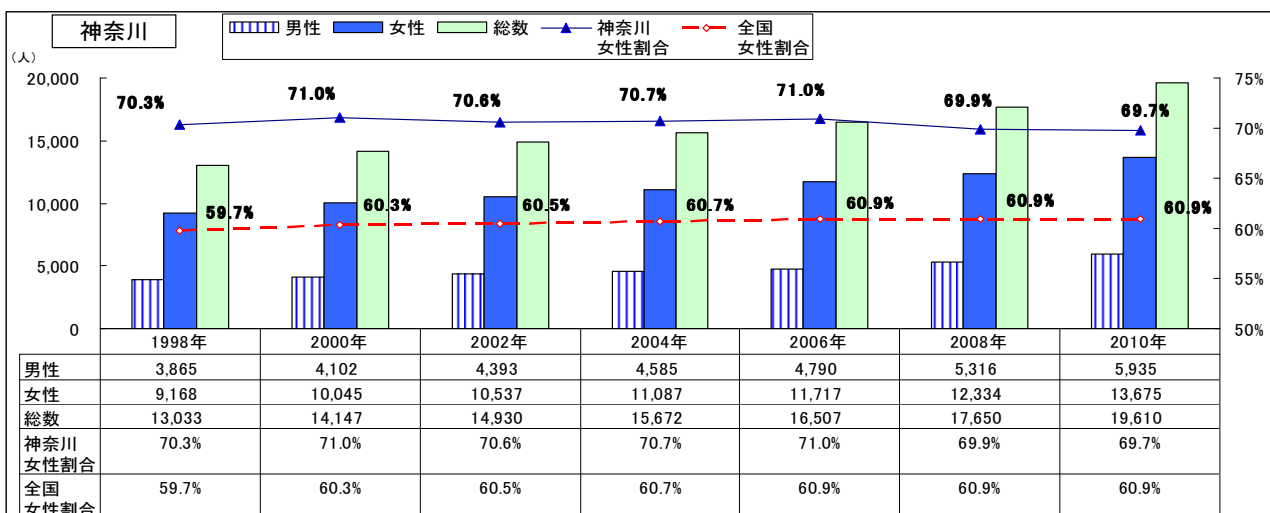
(5-26 届出医師数 男女別人数と女性割合)



(5-27 届出歯科医師数 男女別人数と女性割合)



(5-28 届出薬剤師数 男女別人数と女性割合)



[医師・歯科医師・薬剤師調査] より作成  
このページすべて同じ

注

5-26~5-28  
各年12月31日現在の状況。

## 5-29 就業保健師数

### 女性就業保健師割合（神奈川県、全国）

2010年神奈川県における男性就業保健師数は25人です。

女性就業保健師数は1,874人で、2年前の2008年1,803人より71人、10年前の2000年1,353人より521人増加しています。

2010年女性就業保健師割合は98.7%です。

なお、全国の2010年女性就業保健師割合は、神奈川県と同じ98.7%です。

出典

[衛生行政報告例]より作成  
このページすべて同じ

## 5-30 就業看護師数

### 女性就業看護師割合（神奈川県、全国）

2010年神奈川県における男性就業看護師数は2,426人で、2年前の2008年1,903人より523人、10年前の2000年768人より1,658人増加しています。

2010年女性就業看護師数は49,077人で、2年前の2008年44,091人より4,986人、10年前の2000年34,406人より14,671人増加しています。

2010年女性就業看護師割合は95.3%です。10年前の2000年97.8%より2.5ポイント低下しています。

なお、全国の2010年女性看護師割合は94.4%で、神奈川県の女性看護師割合は全国より0.9ポイント高くなっています。

## 5-31 就業准看護師数

### 女性就業准看護師割合（神奈川県、全国）

2010年神奈川県における男性就業准看護師数は650人で、2年前の2008年607人より43人、10年前の2000年452人より198人増加しています。

2010年女性就業准看護師数は10,685人で、2年前の2008年10,532人より153人増加しているものの、10年前の2000年11,533人より848人減少しています。

2010年女性就業准看護師数割合は94.3%です。10年前の96.2%より1.9ポイント低下しています。

なお、全国の2010年女性准看護師割合は93.7%で、神奈川県の女性看護師割合は全国より0.6ポイント高くなっています。

### ◆ 保健師とは

保健師とは：厚生労働大臣の免許を受けて、保健師の名称を用いて、保健指導に従事することを業とする者をいう。

保健師の免許：保健師国家試験及び看護師国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けなければならない。

（「保健師助産師看護師法」より抜粋）

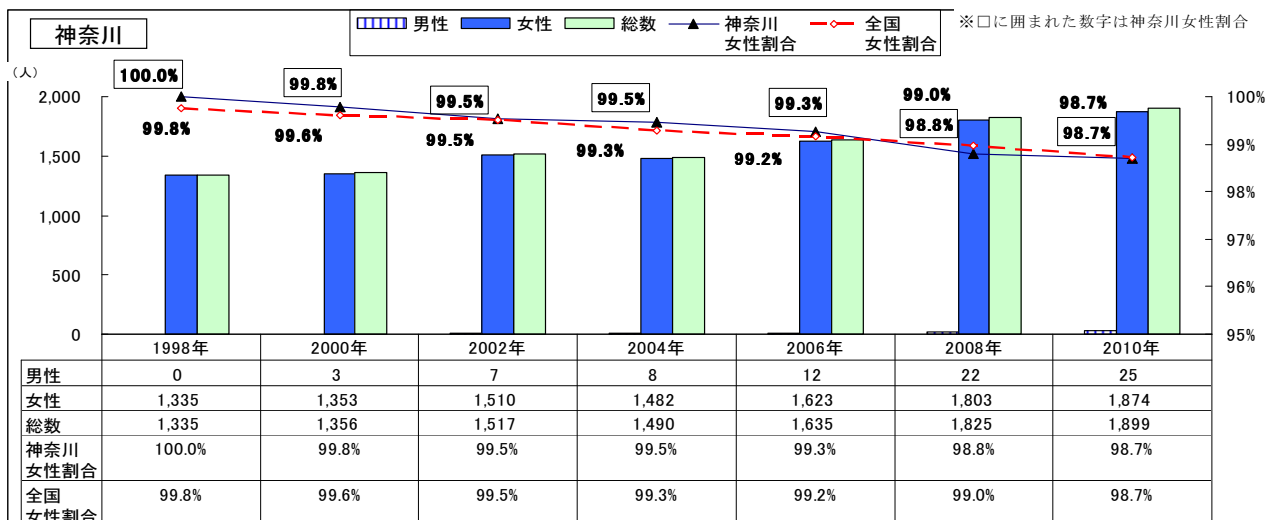
赤ちゃんからお年寄りまで、いっそう健康に暮らせるよう保健指導を行い、地域で生活している方々の健康を支えます。主な職場に保健所、市役所や企業の健康管理室などがあります。

（神奈川県保健福祉局地域保健福祉部保健福祉人材課ホームページ「看護&福祉・介護のしごと案内」より抜粋）

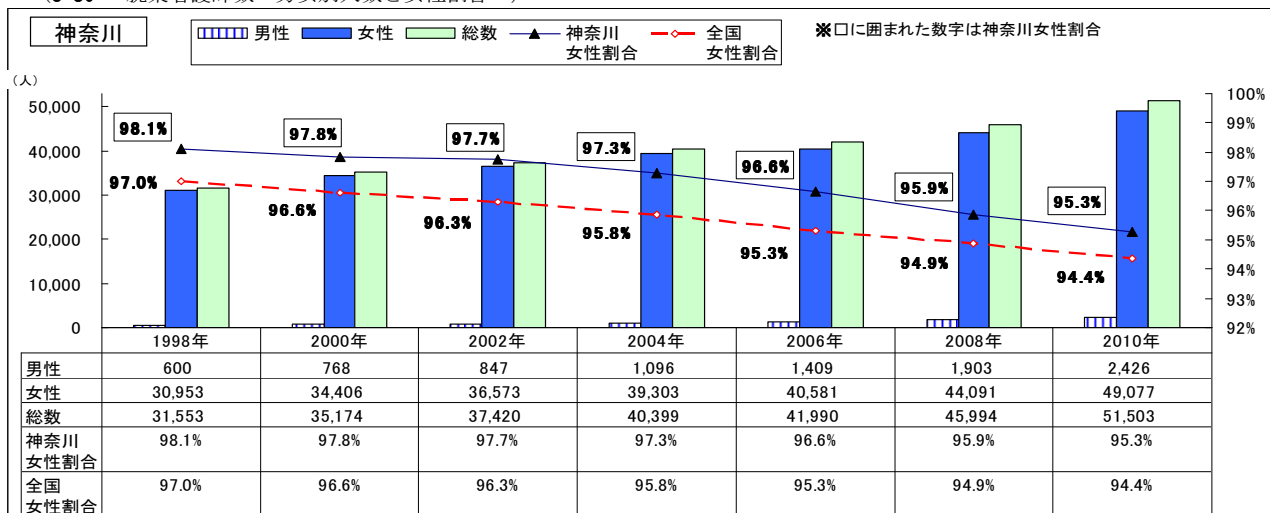
## 注

2001年に「保健師助産師看護師法」が改正され、2002年3月から、保健婦・保健士が「保健師」に、看護婦・看護師が「看護師」に統一された。当統計では、名称統一前の名称も「保健師」「看護師」として集計している。

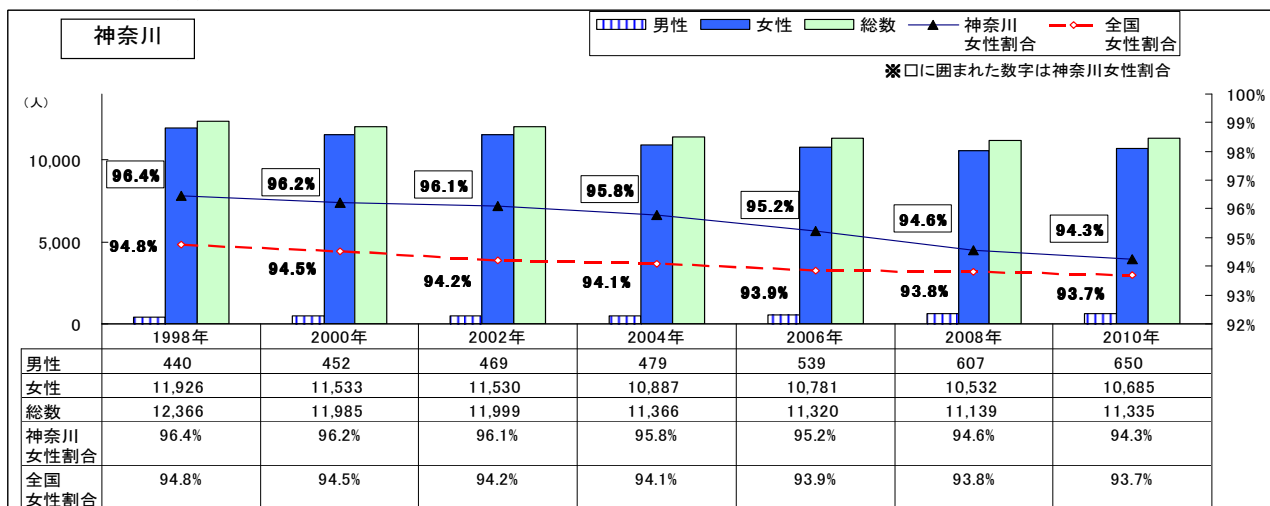
(5-29 就業保健師数 男女別人数と女性割合)



(5-30 就業看護師数 男女別人数と女性割合)



(5-31 就業准看護師数 男女別人数と女性割合)



[衛生行政報告例] より作成  
このページすべて同じ

注

5-29~5-31  
各年12月31日現在。

### 5-32 保育所の施設数

2010年4月1日現在、神奈川県全域の保育所施設は1,003ヶ所（公立335ヶ所、私立668ヶ所）です。10年前の2000年693ヶ所（公立369ヶ所、私立324ヶ所）より310ヶ所、5年前の2005年819ヶ所（公立363ヶ所、私立456ヶ所）より184ヶ所増加しています。

なお、1997年以降の公立と私立の施設数は、公立施設は330台から360台で推移していますが、私立施設は毎年増加し、2010年は2000年の2.06倍となっています。

出典 [福祉行政報告例]

### 5-33 保育所在籍者数

2010年4月1日現在、神奈川県全域の保育所在籍者は95,516人（公立31,750人、私立63,776人）です。10年前の2000年65,281人（公立31,564人、私立33,717人）より30,235人、5年前の2005年78,915人（公立33,240人、私立45,675人）より16,601人増加しています。

なお、1997年以降の公立と私立の保育所在籍者数は、公立の在籍者数は29,000人台から33,000人台で推移していますが、私立の在籍者数は毎年増加し、2010年は2000年の1.89倍となっています。

出典 [福祉行政報告例]

### 5-34 保育所在籍者数年齢階級別

#### 保育所在籍者年齢階級別構成比 (神奈川県、全国)

2010年4月1日現在、神奈川県全域の年齢階級別保育所在籍者で最も多い年齢層は4歳以上で39,006人（全体の40.8%）、1・2歳30,783人（同32.2%）、3歳19,009人（同20.0%）、0歳6,608人（同6.9%）の順です。

また、2010年と2000年と構成割合を比較すると、0歳と1・2歳が高くなり、3歳がほぼ同じ、4歳以上が低くなっています。

出典 [福祉行政報告例]

構成比は[福祉行政報告例]より作成

### 5-35 保育所入所待機児童数

#### ・保育所利用率

2012年4月1日現在、神奈川県全域における保育所入所待機児童は2,039人です。

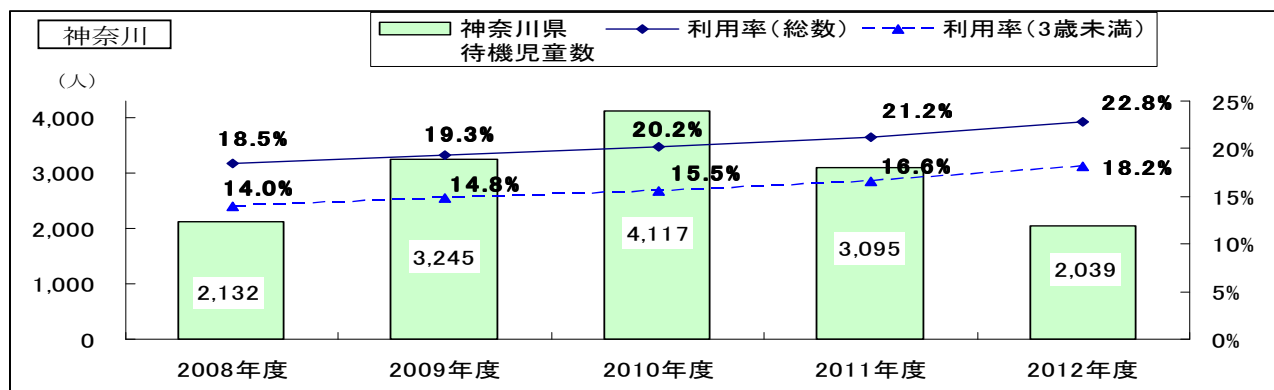
前年より1,056人、2年前より2,078人減少しています。

保育所利用率は、2012年4月1日現在22.8%で、2008年からの推移をみると毎年高くなっています。

また、3歳未満の利用率は、2012年は18.2%で、2008年からの推移をみると毎年高くなっています。

出典 [県次世代育成課調]

(5-35 保育所入所待機児童数・保育所利用率の推移 神奈川県)

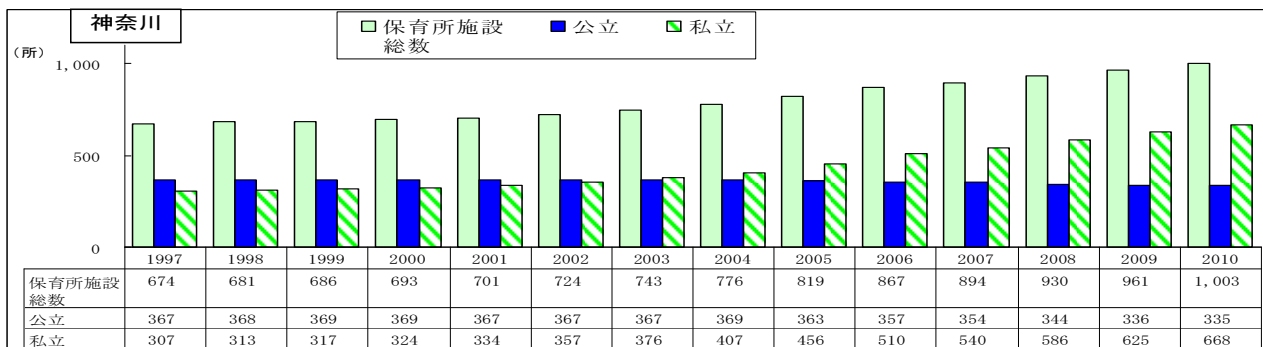


[県次世代育成課調]

#### 注

利用率：就学前児童数に対する認可保育所入所児童数の割合

(5-32 保育所施設数 神奈川県)



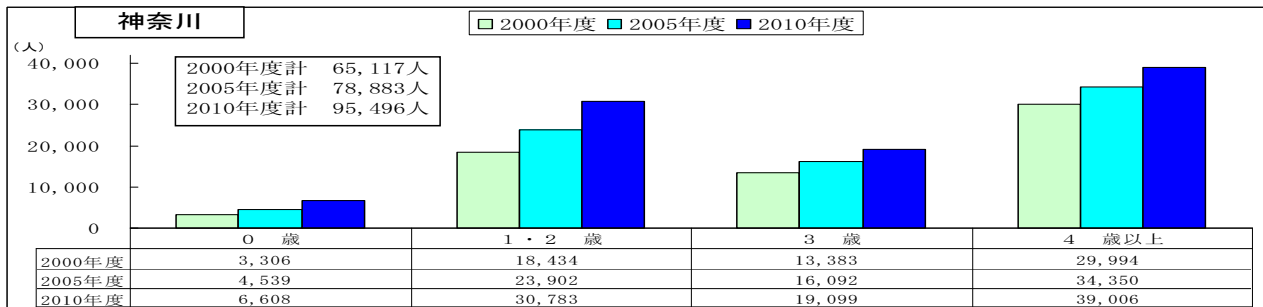
(5-33 保育所在籍者数の推移 神奈川県)

[福祉行政報告例]



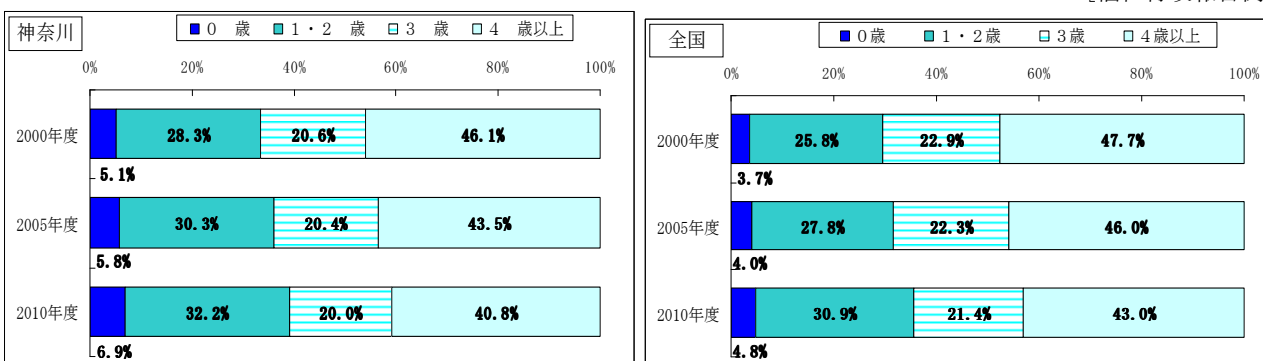
(5-34 保育所在籍者 年齢階級別の推移 神奈川県)

[福祉行政報告例]



(5-34 保育所在籍者 年齢階級別の構成比の推移 神奈川県と全国)

[福祉行政報告例]



注

[福祉行政報告例]より作成

5-32~5-34

・ 神奈川県の数値については、厚生労働省「福祉行政報告例」を基に、かながわ女性センターが独自に足し上げ作成したものである。

・ 各年4月1日現在の人数

5-34

・ 私的契約人員は除く

### 5-36 身長の平均値

#### 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年度神奈川県の子供の男子6歳の平均身長は116.8cm、10歳138.6cm、14歳165.3cm、17歳170.9cmです。

10年前の2001年度と比較すると、各世代で0.3cmから0.9cm低くなっています。

同じく女子6歳の平均身長は116.2cm、10歳140.1cm、14歳156.7cm、17歳158.4cmです。

10年前の2001年度と比較すると、6歳、10歳、14歳の平均身長は0.4cm低くなっていますが、17歳の平均身長は1.0cm高くなっています。

10歳の平均身長は女子が男子より1.5cm高いですが、他の世代では0.6cmから12.5cm低くなっています。

出典

[学校保健統計調査]  
このページすべて同じ

### 5-37 体重の平均値

#### 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年度神奈川県の子供の男子6歳の体重の平均は21.2kg、10歳33.2kg、14歳53.9kg、17歳62.9kgです。

10年前の2001年度と比較すると、各世代で0.1kgから1.9kg減少しています。

同じく女子6歳の体重の平均は21.1kg、10歳33.8kg、14歳49.4kg、17歳52.3kgです。

10年前の2001年度と比較すると、各世代で0.4kgから0.9kg減少しています。

10歳の平均体重は女子が男子より0.6kg重いですが、他の世代では0.1kgから10.6kg軽量です。

### 5-38 座高の平均値

#### 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年神奈川県の子供の男子6歳の座高の平均は64.8cm、10歳74.6cm、14歳88.2cm、17歳91.8cmです。

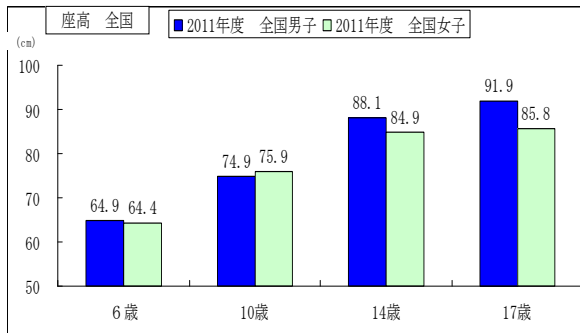
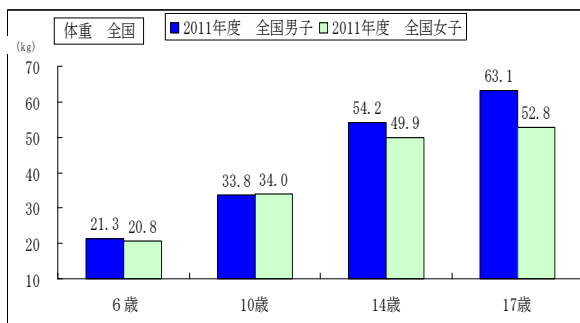
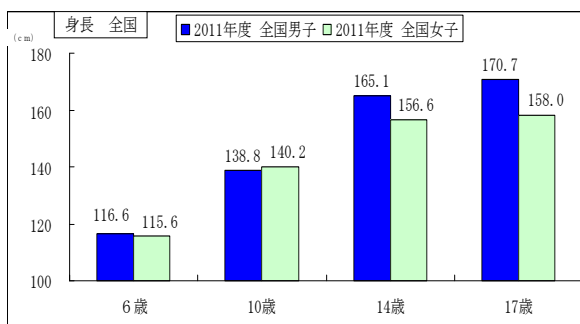
10年前の2001年度と比較すると、6歳は0.1cm、10歳は0.7cm低く、14歳が横ばい、17歳が0.2cm伸びています。

同じく女子6歳の座高の平均は64.6cm、10歳75.7cm、14歳84.8cm、17歳85.8cmです。

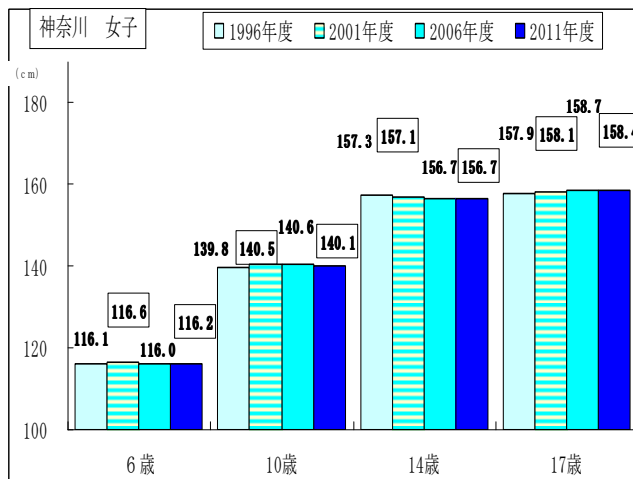
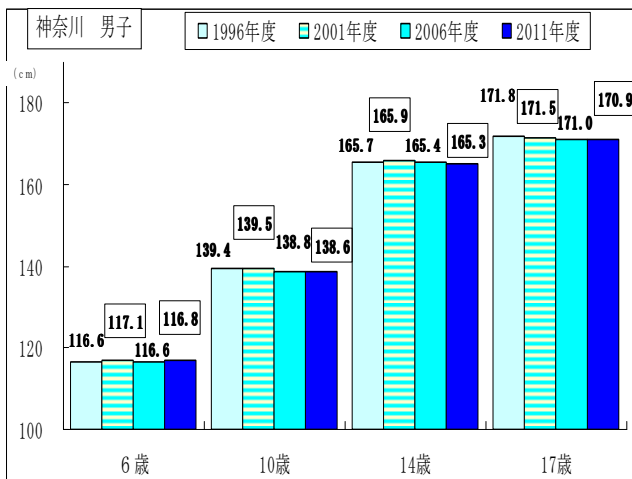
10年前の2001年度と比較すると、17歳の座高の平均は0.5cm伸びていますが、他の世代は0.1cmから0.4cm低くなっています。

10歳の座高の平均は女子が男子より1.1cm高いですが、他の世代では0.2cmから6.0cm低くなっています。

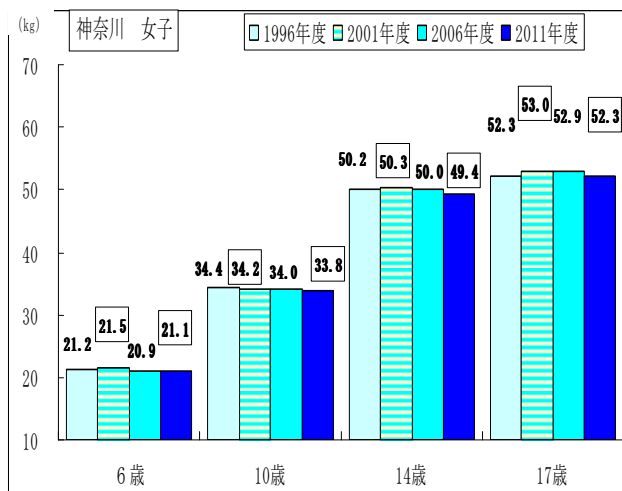
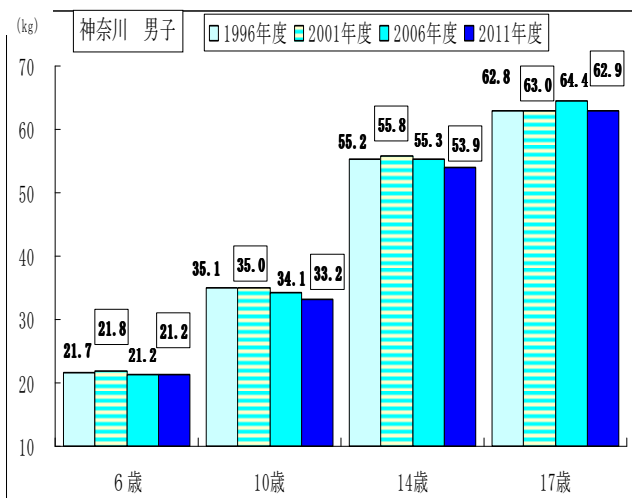
◆ 2011年度 全国の平均値  
身長・体重・座高



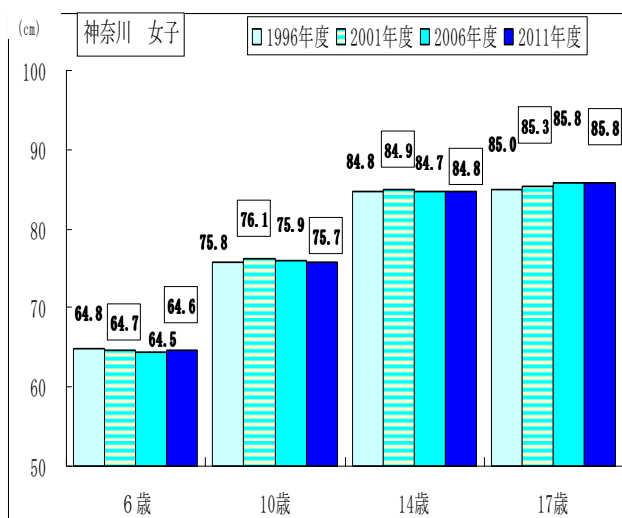
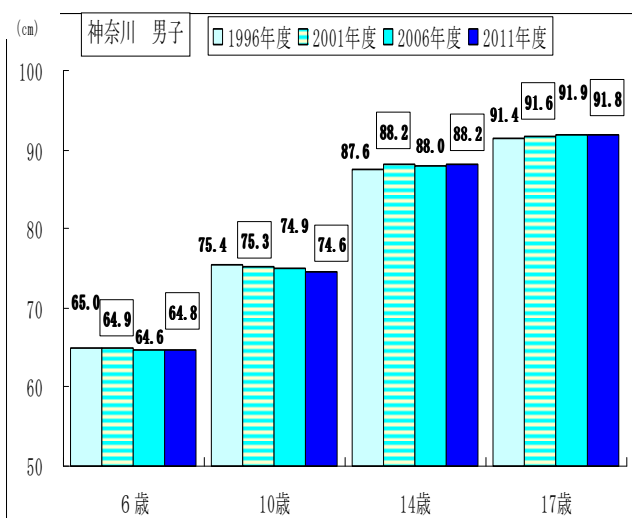
(5-36 男子・女子 身長の平均値の推移 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県)



(5-37 男女別 体重の平均値の推移 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県)



(5-38 男女別 座高の平均値の推移 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県)



[学校保健統計調査]  
このページすべて同じ

注

5-36~5-38  
調査期間 各年度4月から7月まで

### 5-39 肥満傾向児出現率 男子 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年度神奈川県男子6歳の肥満傾向児出現率は1.88%、10歳7.89%、14歳8.06%、17歳12.18%です。

5年前の2006年度と比較すると、各世代で1ポイントから4ポイント台低下しています。

なお、全国との比較では、神奈川県男子の肥満傾向児出現率は17歳が0.64ポイント高いものの、他の年齢はそれぞれ0.42、1.53、1.87ポイント低くなっています。

**出典** [学校保健統計調査]  
このページすべて同じ

### 5-40 肥満傾向児出現率 女子 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年度神奈川県女子6歳の肥満傾向児出現率は3.98%、10歳10.13%、14歳6.20%、17歳4.63%です。

6歳と10歳の女子は、男子より肥満傾向児出現率が2ポイント台高く、14歳と17歳の女子は、男子よりそれぞれ1ポイント台と7ポイント台低くなっています。

5年前の2006年度と比較すると、10歳が2.93ポイント高くなっていますが、他の世代では0ポイント台から1ポイント台低下しています。

なお、全国との比較では、神奈川県女子は6歳が0.05ポイント、10歳が2.42ポイント高く、14歳が1.23ポイント、17歳が3.13ポイント低くなっています。

### 5-41 痩身傾向児出現率 男子 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年度神奈川県男子6歳の痩身傾向児出現率は0.56%、10歳2.64%、14歳2.18%、17歳2.38%です。

5年前の2006年と比較すると各世代ともに、ほぼ横ばいです。

なお、全国との比較では、神奈川県男子の痩身傾向児出現率は、10歳が0.05ポイント低いものの、他の世代は0.16から0.84ポイント高くなっています。

### 5-42 痩身傾向児出現率 女子 6歳・10歳・14歳・17歳

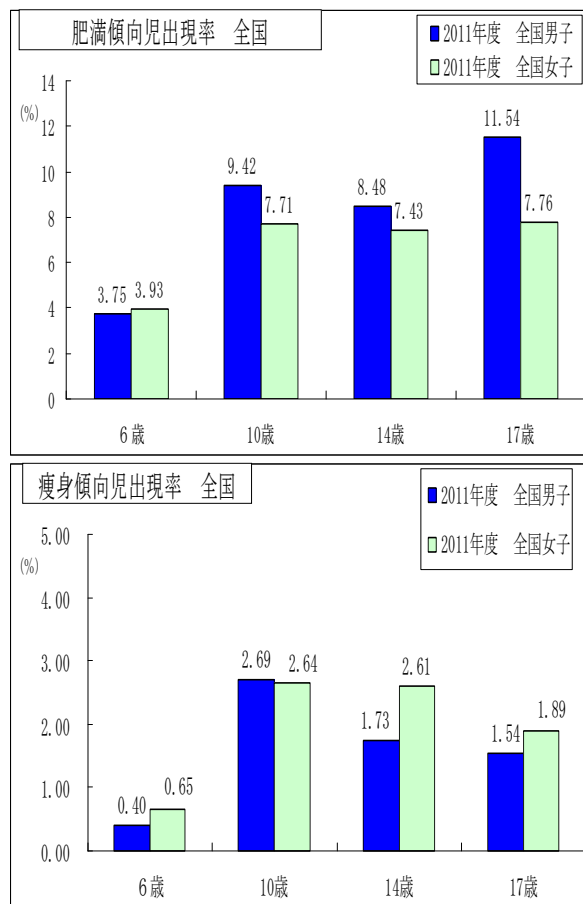
2011年度神奈川県女子6歳の痩身傾向児出現率は0.41%、10歳4.70%、14歳2.85%、17歳2.01%です。

10歳の女子は男子より痩身傾向児出現率が2.06ポイント高く、他の世代は0ポイント台の違いです。

5年前の2006年度と比較すると、14歳が0ポイント台低下し、他の世代はそれぞれ0ポイント台から1ポイント台高くなっています。

なお、全国との比較では、神奈川県女子の痩身傾向児出現率は、6歳が0.24ポイント低いものの、他の世代は0.12から2.06ポイント高くなっています。

◆ 2011年度 全国 肥満・痩身傾向児出現率



#### 注

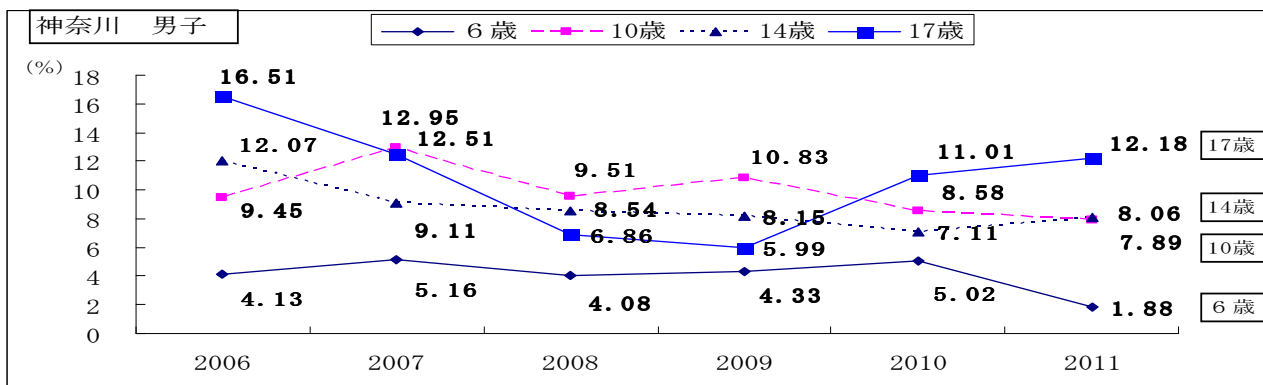
##### 肥満傾向児・痩身傾向児について：

性別、年齢別、身長別標準体重から肥満度を算出し、肥満度が20%以上の者を肥満傾向児、-20%以下の者を痩身傾向児としている。

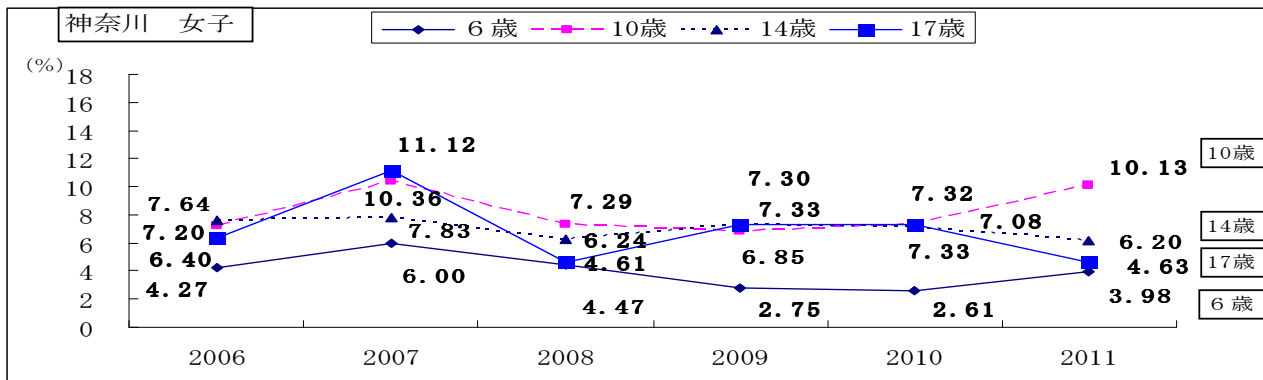
$$\text{肥満度 (過体重度)} = \left[ \frac{\text{実測体重 (kg)} - \text{身長別標準体重 (kg)}}{\text{身長別標準体重 (kg)}} \times 100 (\%) \right]$$



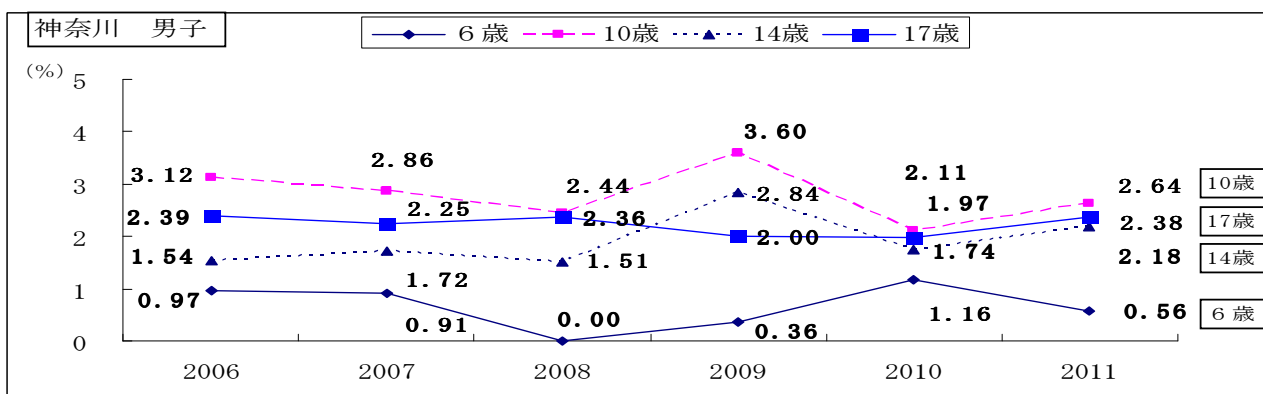
(5-39 男子 肥満傾向児の出現率 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県 )



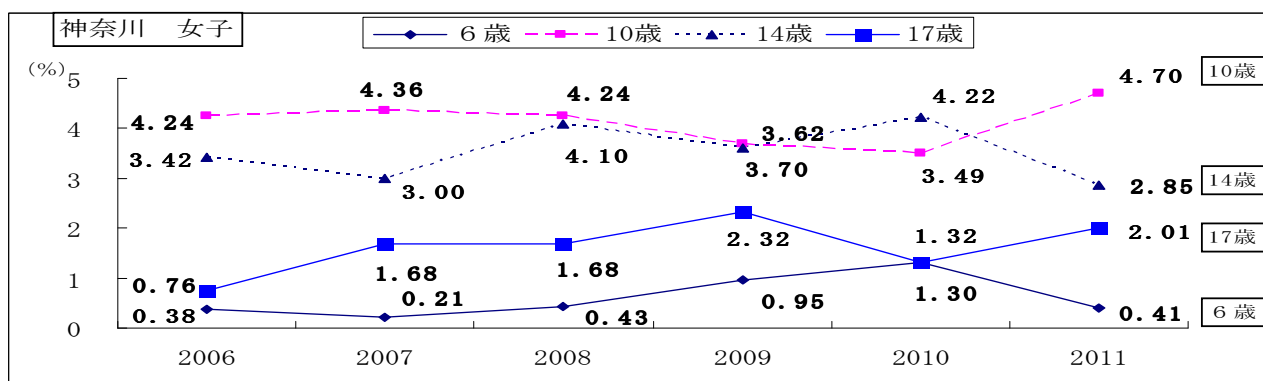
(5-40 女子 肥満傾向児の出現率 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県 )



(5-41 男子 痩身傾向児の出現率 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県 )



(5-42 女子 痩身傾向児の出現率 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県 )



[学校保健統計調査]  
このページすべて同じ

注

5-39~5-42  
調査期間 各年度4月から7月まで

### 5-43 握力の平均値

#### 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年度神奈川県の子供6歳の握力の平均値は9.11kg、10歳16.63kg、14歳34.79kg、17歳41.69kgです。

ちなみに6歳の握力と比較すると、10歳1.8倍、14歳3.8倍、17歳4.6倍です。

同じく女子6歳の握力の平均値は8.25kg、10歳16.10kg、14歳25.12kg、17歳26.40kgです。

6歳の握力と比較すると、10歳2.0倍、14歳3.0倍、17歳3.2倍です。

6歳と10歳の女子の握力は男子より少し低い程度ですが、14歳と17歳の女子の握力は、男子よりそれぞれ9kgと15kg程度低くなっています。

出典

[神奈川県児童生徒体力・運動能力調査報告書]より作成  
このページすべて同じ

### 5-44 上体おこしの平均値

#### 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年神奈川県の子供6歳の上体おこしの平均値は10.94回、10歳は19.05回、14歳29.23回、17歳30.11回です。

ちなみに6歳の上体おこしの回数と比較すると、10歳1.7倍、14歳2.7倍、17歳2.8倍です。

同じく女子6歳の上体おこしの平均値は10.47回、10歳は17.13回、14歳23.13回、17歳22.25回です。14歳の回数は17歳を上回っています。

6歳の回数と比較すると、10歳1.6倍、14歳2.2倍、17歳2.1倍です。

6歳女子の上体おこしは男子とほぼ同じで、10歳、14歳、17歳は1回から8回程度少なくなっています。

### 5-45 長座体前屈の平均値

#### 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年度神奈川県の子供6歳の長座体前屈の平均値は26.04cm、10歳32.54cm、14歳45.60cm、17歳47.95cmです。

ちなみに6歳の長座体前屈と比較すると、10歳1.2倍、14歳1.8倍、17歳1.8倍です。

同じく女子6歳の長座体前屈の平均値は28.14cm、10歳36.78cm、14歳45.01cm、17歳46.29cmです。

6歳と比較すると、10歳1.3倍、14歳1.6倍、17歳1.6倍です。

6歳と10歳女子の長座体前屈は、男子よりそれぞれ2cmと4cmほど長く、14歳はほぼ同じ、17歳は1cm程度短くなっています。

### 5-46 反復横とびの平均値

#### 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年神奈川県の子供6歳の反復横とびの平均値は25.46回、10歳は38.70回、14歳51.96回、17歳54.04回です。

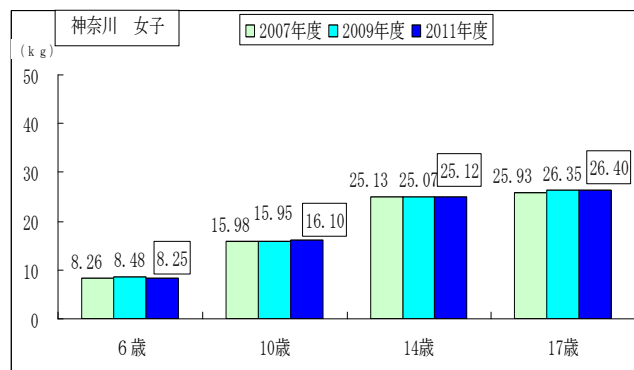
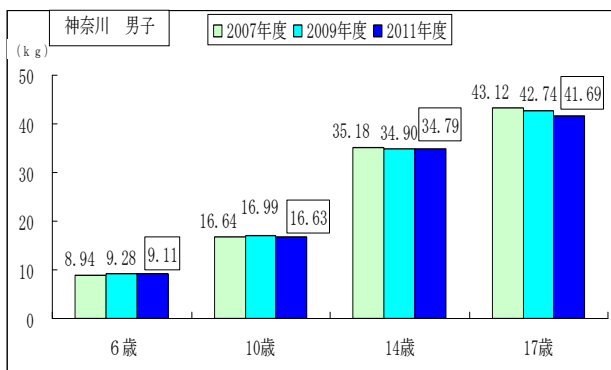
ちなみに6歳の反復横とびの回数と比較すると、10歳1.5倍、14歳2.0倍、17歳2.1倍です。

同じく女子6歳の反復横とびの平均値は24.18回、10歳は35.94回、14歳44.48回、17歳44.23回です。14歳の回数は17歳を上回っています。

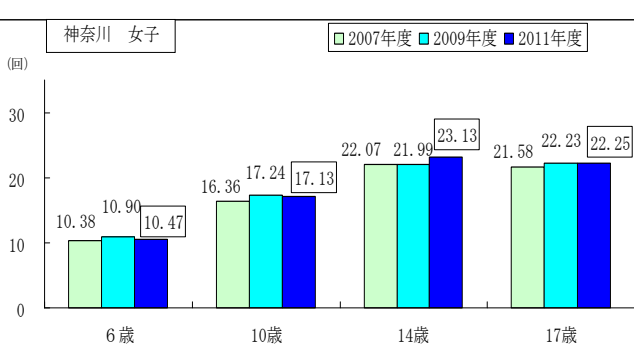
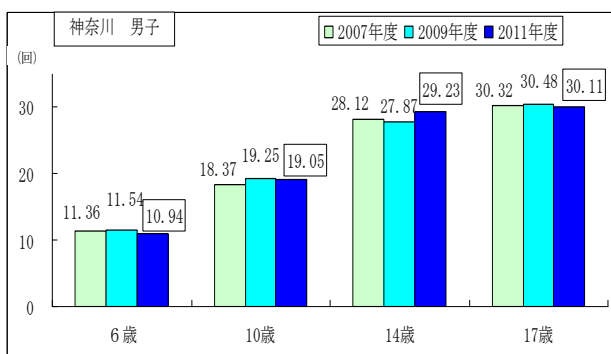
6歳の回数と比較すると、10歳1.5倍、14歳1.8倍、17歳1.8倍です。

女子の反復横とびは、男子より各世代で1回から9回程度少なくなっています。

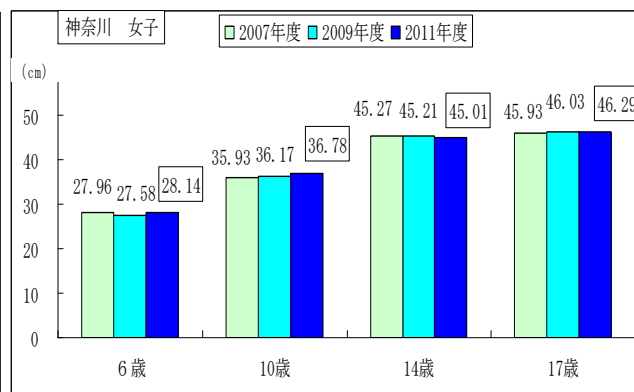
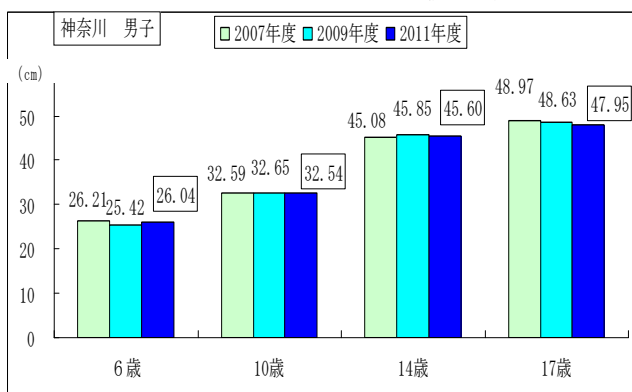
(5-43 男子・女子 握力の平均値の推移 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県 )



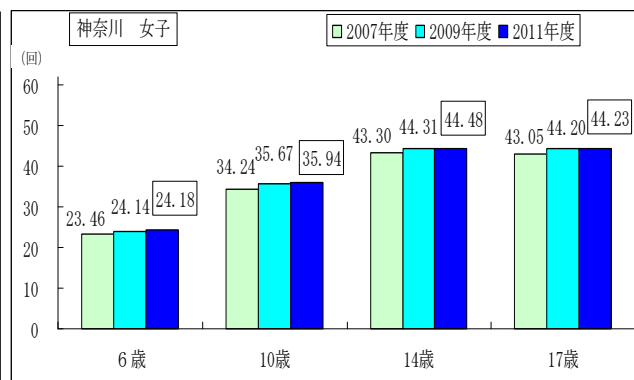
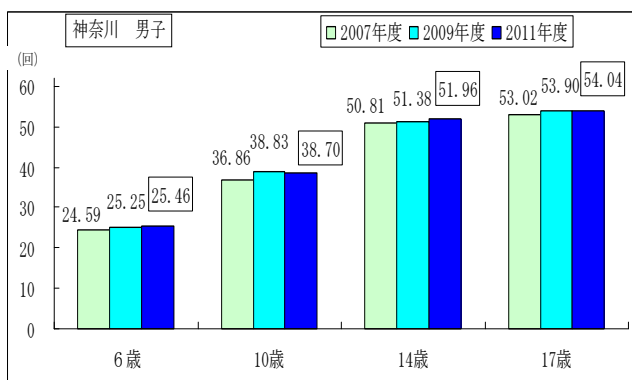
(5-44 男子・女子 上体おこしの平均値の推移 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県 )



(5-45 男子・女子 長座体前屈の平均値の推移 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県 )



(5-46 男子・女子 反復横とびの平均値の推移 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県 )



注

5-43~5-46

調査期間 各年度4月から7月まで

[神奈川県児童生徒体力・運動能力調査報告書]より作成  
このページすべて同じ

### 5-47 20mシャトルランの平均値 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年度神奈川県男子6歳の20mシャトルランの回数の平均値は16.53回、10歳49.13回、14歳90.10回、17歳88.92回です。

ちなみに6歳の回数と比較すると、10歳3.0倍、14歳5.5倍、17歳5.4倍で、14歳は17歳を上回ります。

同じく女子6歳の20mシャトルランの平均値は13.37回、10歳34.67回、14歳55.68回、17歳50.30回で、14歳は17歳を上回ります。

6歳と比較すると、10歳2.6倍、14歳4.2倍、17歳3.8倍です。

女子の20mシャトルランは、男子より各年齢で3回から38回程度少なくなっています。

**出典** [神奈川県児童生徒体力・運動能力調査報告書]より作成  
このページすべて同じ

### 5-48 50m走の平均値

#### 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年度神奈川県男子6歳の50m走の平均値は11.71秒、10歳9.32秒、14歳7.70秒、17歳7.52秒です。

同じく女子6歳の50m走の平均値は12.14秒、10歳9.67秒、14歳8.86秒、17歳9.23秒で、14歳は17歳を上回ります。

女子の50m走は、男子より各年齢で0.4秒から1.7秒程度多く時間を要しています。

### 5-49 立ち幅とびの平均値

#### 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年神奈川県男子6歳の立ち幅とびの平均値は111.84cm、10歳150.23cm、14歳205.78cm、17歳220.33cmです。

ちなみに6歳の立ち幅とびと比較すると、10歳1.3倍、14歳1.8倍、17歳2.0倍です。

同じく女子6歳の立ち幅とびの平均値は101.81cm、10歳141.44cm、14歳166.96cm、17歳163.72cmで、14歳は17歳を上回ります。

6歳と比較すると10歳1.4倍、14歳1.6倍、17歳1.6倍です。

女子の立ち幅とびは、男子より各年齢で8cmから56cm程度距離が短くなっています。

### 5-50 ソフトボール投げ(6~11歳)・ ハンドボール投げ(12~19歳)の平均値 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年度ソフトボール投げ(6~11歳)・ハンドボール投げ(12~19歳)で神奈川県の男子の平均値は6歳は8.42m、10歳23.57m、14歳23.24m、17歳25.70mです。

同じく女子の平均値は6歳は5.50m、10歳は13.50m、14歳13.78m、17歳14.55mです。

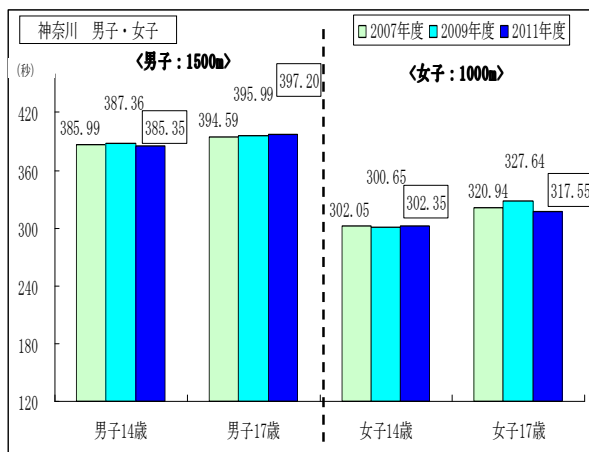
女子は男子より各年齢で2.9mから11m程度投げる距離が短くなっています。

### 5-51 持久走の平均値 男子1500m・女子1000m 14歳・17歳

2011年度神奈川県の男子14歳の持久走(1500m)の平均値は385.35秒、17歳は397.20秒で、14歳は17歳より早く走ります。

同じく女子14歳の持久走(1000m)の平均値は302.35秒、17歳は317.55秒で、14歳は17歳より早く走ります。

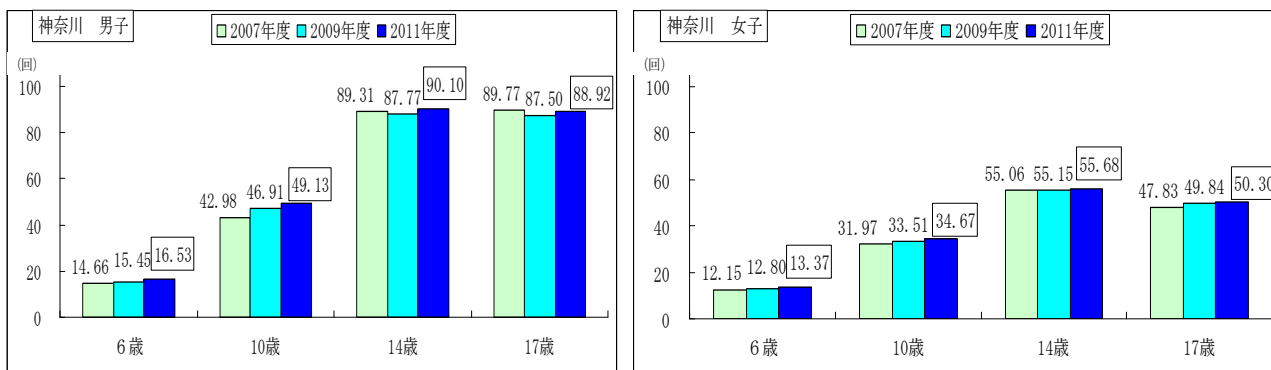
(5-51 男子1500m・女子1000m 持久走の平均値の推移 14歳・17歳 神奈川県)



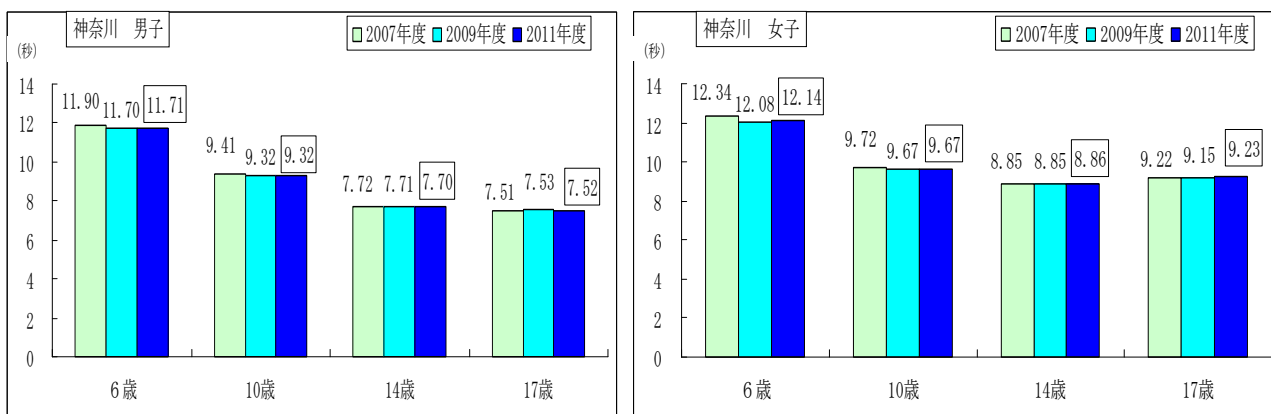
### 注

- ・6~11歳はソフトボール投げ、12~19歳はハンドボール投げ(「新体力テスト実施要領」文部科学省)
- ・持久走の対象は12~19歳。男子1500m、女子1000m (「新体力テスト実施要領」文部科学省)

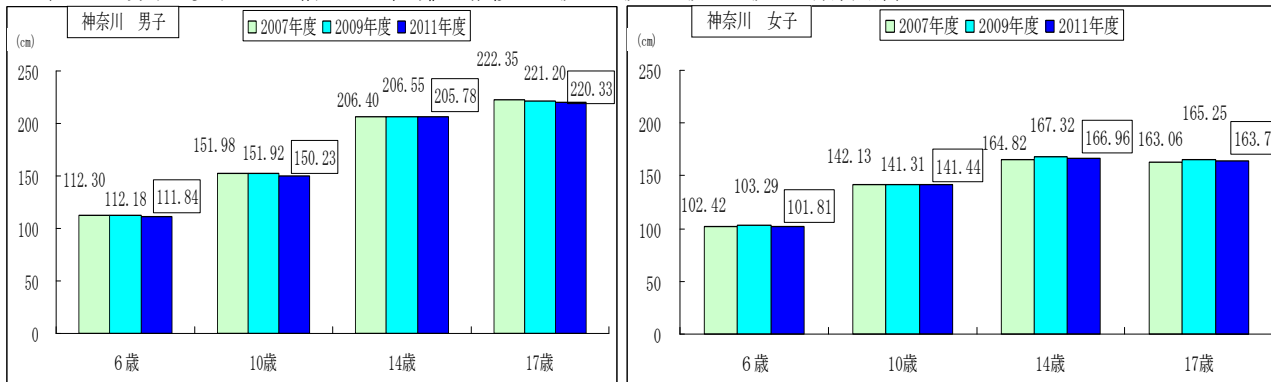
(5-47) 男子・女子 20mシャトルランの平均値の推移 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県



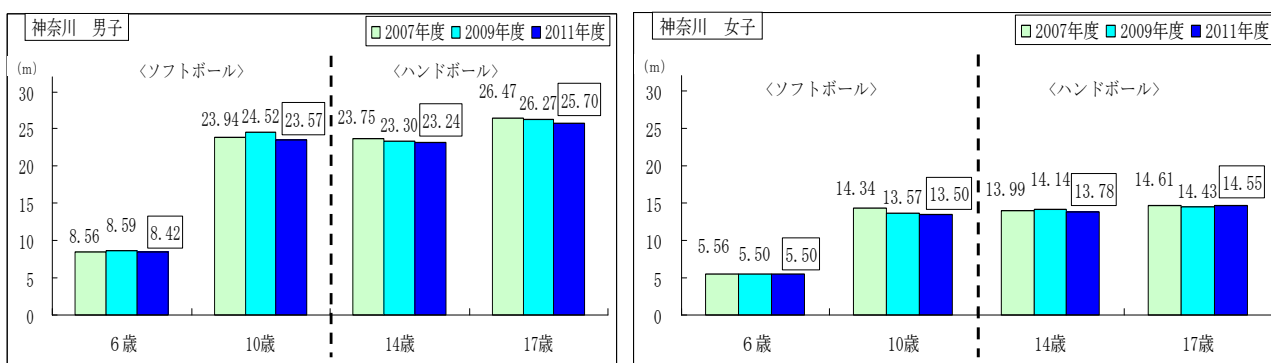
(5-48) 男子・女子 50m走の平均値の推移 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県



(5-49) 男子・女子 立ち幅とびの平均値の推移 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県



(5-50) 男子・女子 ソフトボール投げ (6歳・10歳) ・ハンドボール投げ (14歳・17歳) の平均値の推移 神奈川県



[神奈川県児童生徒体力・運動能力調査報告書]より作成  
このページすべて同じ

注

5-47~5-51  
調査期間 各年度4月から7月まで

### 5-52 運動部等加入状況

#### 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年度神奈川県の子供6歳、10歳、14歳、17歳のうちで、運動部や地域のスポーツクラブへ加入している割合が最も高いのは14歳で87.8%とほぼ10人に9人が加入しています。17歳は56.2%で14歳より約31ポイント低くなります。

同じく女子は14歳が最も高くその割合は67.8%とほぼ10人に7人が加入しています。17歳は35.8%で14歳より32ポイント低くなります。

男女別では、いずれの年齢も男子が女子より加入割合が高くなっています。

**出典**

[平成23年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査報告書]より作成  
このページすべて同じ

### 5-53 運動・スポーツの実施状況

#### 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年度神奈川県の子供6歳、10歳、14歳、17歳のうちで運動・スポーツを「週3日以上」行っている割合が最も高いのは14歳で80.0%と10人に8人が行っています。17歳は47.5%で14歳より約32ポイント低くなります。

同じく女子14歳が最も高くその割合は59.8%とほぼ10人に6人が行っています。17歳は29.1%で14歳より約30ポイント低くなります。

男女別では、いずれの年齢も男子が女子より「週3日以上」行っている割合が高くなっています。

### 5-54 運動・スポーツの実施時間

#### 6歳・10歳・14歳・17歳

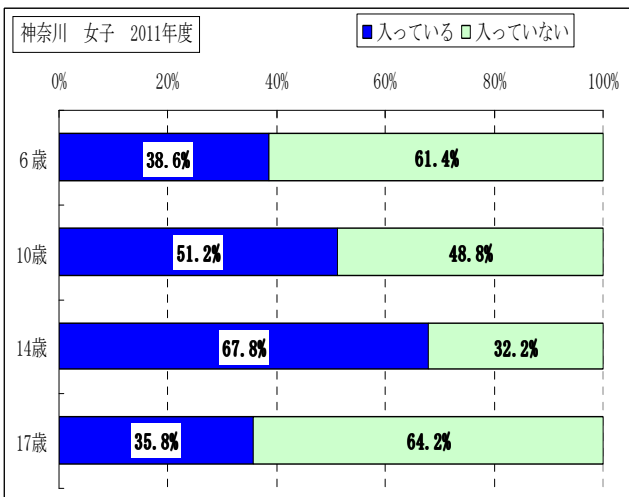
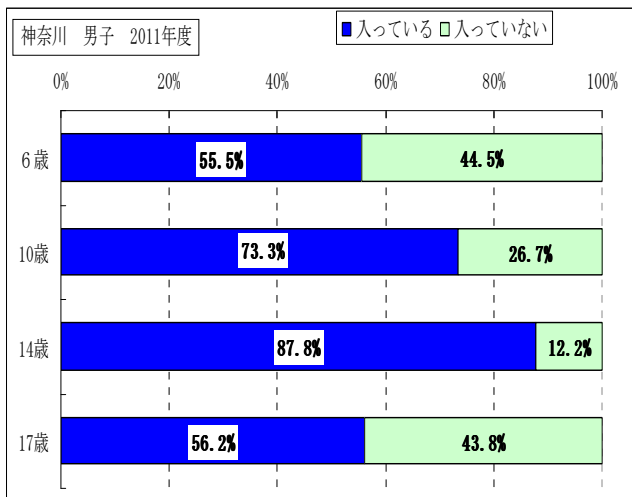
2011年度神奈川県の子供6歳、10歳、14歳、17歳のうちで運動・スポーツを1日に「2時間以上」行っている割合が最も高いのは14歳で58.9%とほぼ10人に6人が行っています。17歳は39.7%で14歳より約19ポイント低くなります。

同じく女子は14歳が最も高くその割合は42.3%です。17歳は、22.7%で14歳より約19ポイント低くなり、59.4%が「30分未満」となっています。

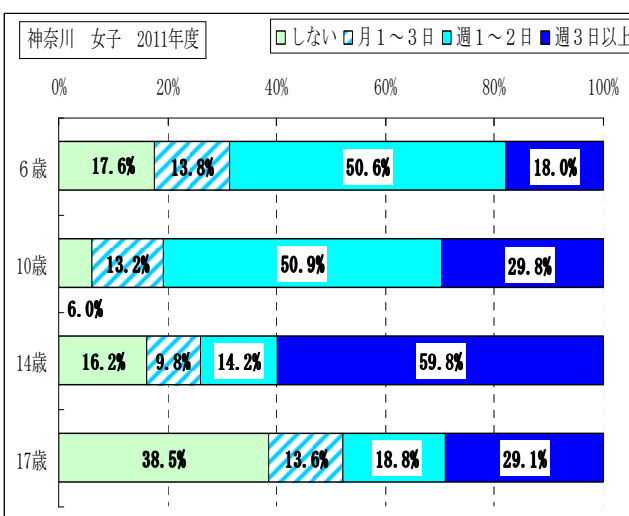
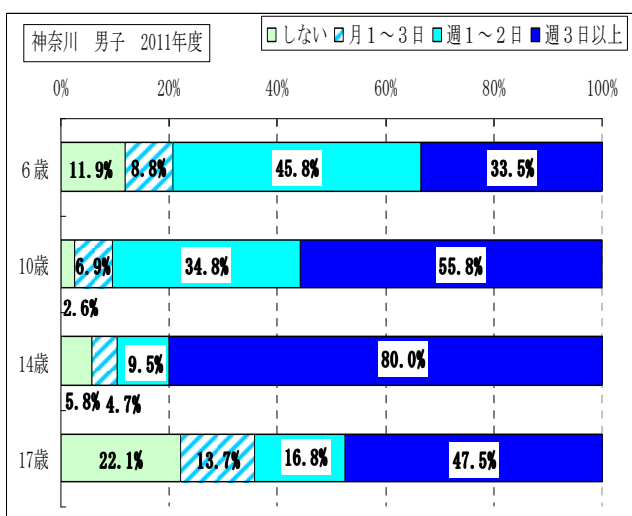
男女別では、いずれの年齢も男子が女子より1日に「2時間以上」行っている割合が高くなっています。



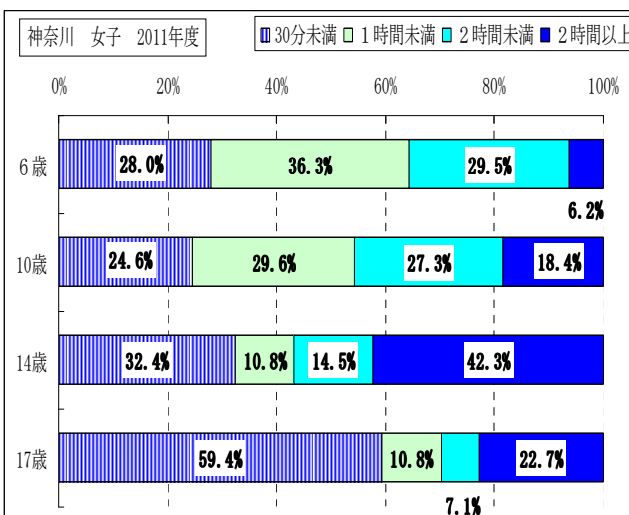
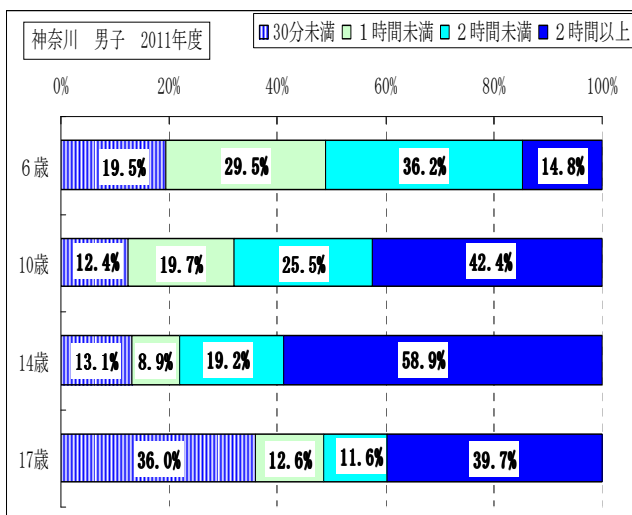
(5-52 運動部や地域のスポーツクラブへの加入状況 男女別 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県 )



(5-53 運動・スポーツの実施状況 男女別 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県 )



(5-54 運動・スポーツの実施時間 男女別 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県 )



[平成23年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査報告書]より作成  
このページすべて同じ

注

5-52~5-54

調査期間 各年度4月から7月まで

### 5-55 朝食の喫食状況

#### 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年度神奈川県の子供6歳で朝食を「毎日食べない」児童は1.1%います。年齢が高くなるほどにその割合は高くなり、10歳で1.5%、14歳では4.8%、17歳では9.1%になります。

同じく女子6歳で朝食を「毎日食べない」児童は0.7%、10歳で1.3%、14歳では2.7%、17歳では6.4%になります。

男女別の相違では、14歳男子と17歳男子の朝食を「毎日食べない」者は、女子よりそれぞれ2ポイント以上高くなっています。

**出典**

[平成23年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査報告書]より作成  
このページすべて同じ

### 5-56 睡眠時間

#### 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年度神奈川県の子供6歳では睡眠時間が「6時間未満」の児童が3.3%います。年齢が高くなるほどにその割合は高くなり、10歳で5.9%、14歳では16.6%、17歳では31.7%になります。

同じく女子6歳では睡眠時間が「6時間未満」の児童が2.0%います。10歳で3.6%、14歳では20.0%、17歳では37.0%になります。

睡眠時間が「6時間未満」の男女別の相違は、6歳と10歳は男子の方が割合が高く、14歳と17歳では逆に女子の割合が高くなっています。

### 5-57 テレビ視聴時間

#### 6歳・10歳・14歳・17歳

2011年度神奈川県の子供6歳、10歳、14歳、17歳のうちでテレビ視聴時間が「3時間以上」の割合が最も高いのは10歳で31.8%です。また、「1時間未満」の割合が最も高いのは17歳で27.7%です。

同じく女子はテレビ視聴時間が「3時間以上」の割合が最も高いのは10歳で28.0%です。また、「1時間未満」の割合が最も高いのは6歳で24.2%です。

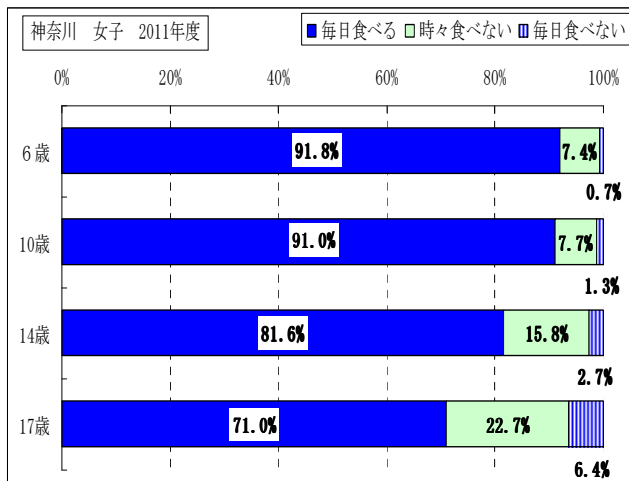
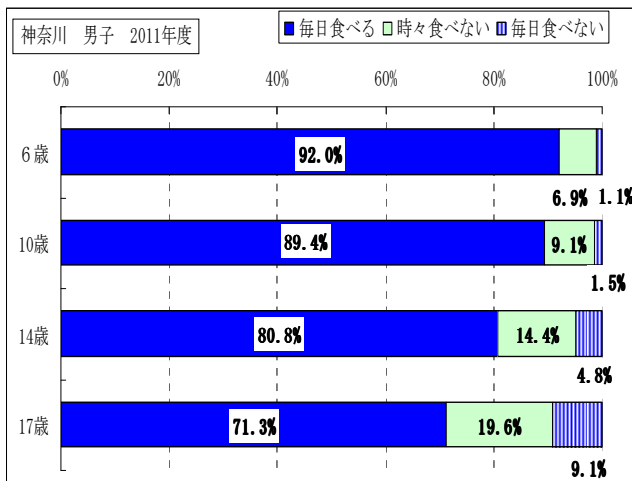
テレビ視聴時間が「3時間以上」の男女別相違は、6歳と10歳は男子の方が割合が高く、14歳と17歳では逆に女子の割合が高くなっています。また、「1時間未満」では、この反対の傾向となっています。



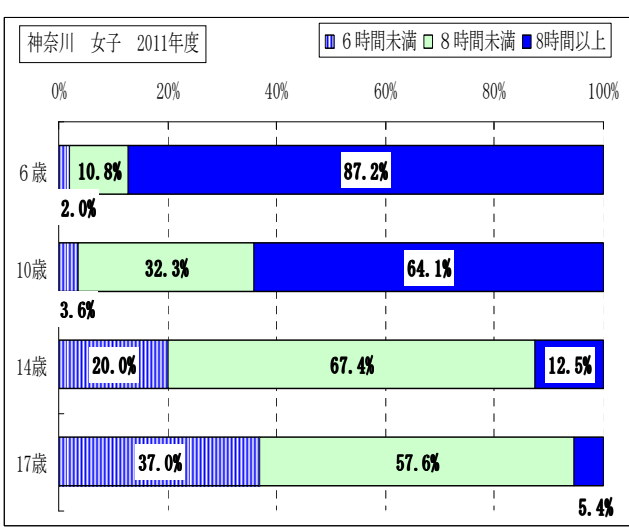
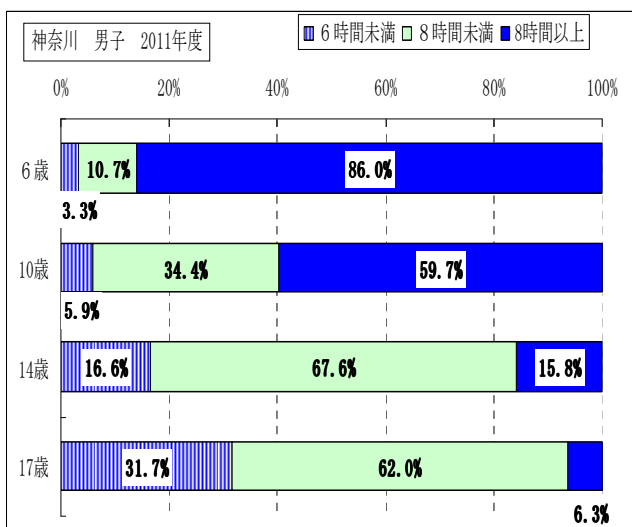


(5-55 朝食の喫食状況 男女別 6歳・10歳・14歳・17歳

神奈川県)

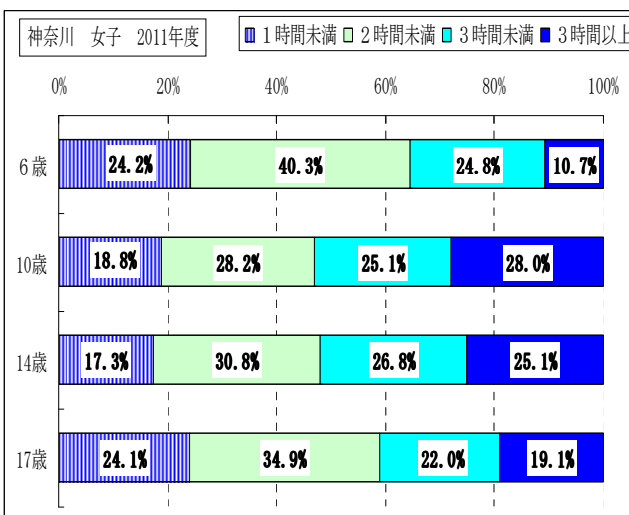
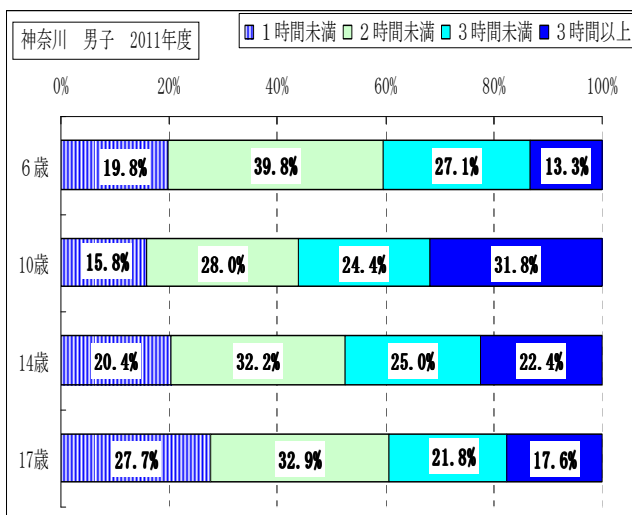


(5-56 睡眠時間 男女別 6歳・10歳・14歳・17歳 神奈川県)



(5-57 テレビ視聴時間 男女別 6歳・10歳・14歳・17歳

神奈川県)



[平成23年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査報告書]より作成  
このページすべて同じ

注

5-55~5-57  
調査期間 各年度4月から7月まで



## 医療・保育・健康の問題

問1 糖尿病、悪性新生物、脳血管疾患のうち、2011年の神奈川県患者数が一番多いのはどれでしょうか。

- ① 糖尿病
- ② 悪性新生物
- ③ 脳血管疾患

問2 2010年神奈川県で保健所に届け出ている医師の人数は17,676人でした。そのうち女性医師の割合は、次のうちどれでしょうか？

- ① 14.1%
- ② 18.9%
- ③ 22.3%

問3 2010年神奈川県で保健所に届け出ている薬剤師の人数は19,610人でした。そのうち女性薬剤師の割合は、次のうちどれでしょうか？

- ① 24.4%
- ② 50.0%
- ③ 69.7%

問4 2010年神奈川県就業看護師数は51,503人でした。そのうち男性看護師の割合は、次のうちどれでしょうか？

- ① 3.4%
- ② 4.7%
- ③ 5.6%

問5 2011年度の児童生徒体力・運動能力調査で、17歳男子の睡眠時間が「6時間未満」の割合は約32%です。では同じく17歳女子の割合は次のどれでしょうか？

- ① 約27%
- ② 約32%
- ③ 約37%